

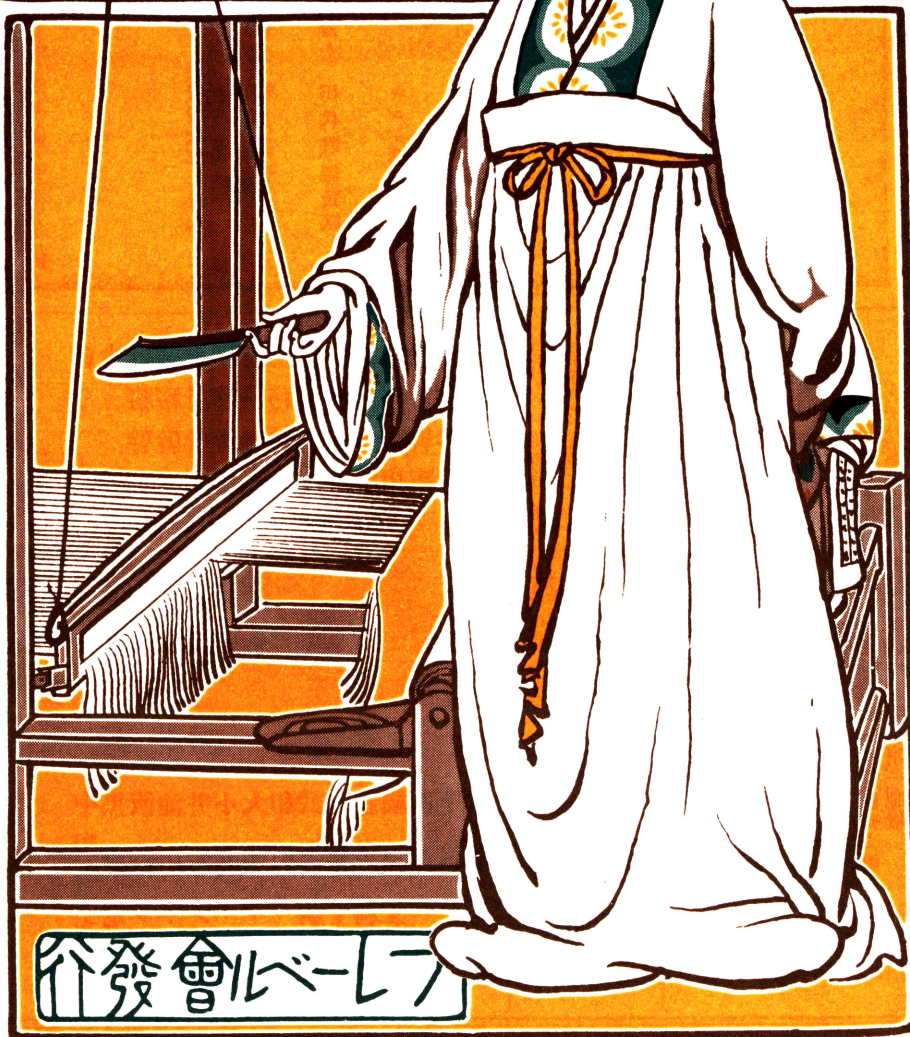


幼 兒 教 育 研 究 雜 誌

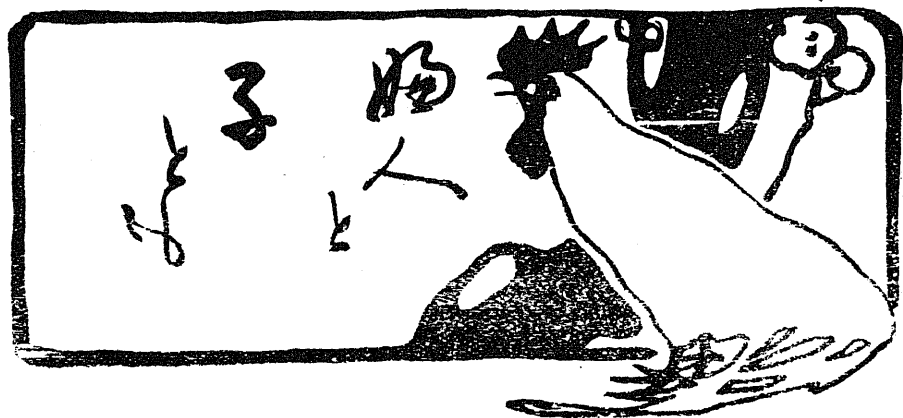


母と子

第拾卷
第六號



フーバー會發售



十七字詩

水無月の雨や甘露の降る心地
貫ふ手に笠の雫や燕子花
涼み臺笑ひづくして別れけり
麥湯煮て晝寢の客を起しけり
夏座敷舟横づけて上りけり
夕飯や蚊の出ぬ内を親に据へ
螢狩思ひがけなく遠走り
暑き日や空辨當を腰にして
小包で嫁の里から新茶かな
古茶新茶象牙の細工譽めながら
螢狩思はず知らず土橋まで
湯戾りの闇をかすめて螢かな
人去りて跡に月澄む清水かな
太刀風の一と村戦ぐ幟かな
夕顔や荒れし都の寺小路
蝙蝠や鐘も撞かずに暮るゝ寺
朝顔や明けぬ内から叩く木戸
甲板に誰が尺八ぞ夏の月

同同同同同奇同同義同同達同同同同同柳

盛

磨

雄

零

清國の婦人と子

ども

(承前)

法貴慶次郎氏夫人

それから女學校は私立のが四つあります。それを皆參觀致しました。何れも小學校程度であります。一つは技藝學校で重にも機を織つて居ります。京都の西陳から女工が行つて教へて居ります。外に女學校の先生には何んな人が居るかといふと餘り新しい教育を受けた人ではございません。漢文の力は多少あるやうであります。新しい智識は乏しい地理を教へると申しまして生徒にも本を與へ自分らは椅子に腰を掛けて居つて地理を朗讀するのであります。漢文の教師が地理を朗讀するのは宜しうございしますが、地圖もなければ標本も何もない所で只朗讀して教へて居るのであります。唯外にクリスチャンの學校は澤山あります。ロンドン、ミッシヨンの學校を參觀いたしました。數人の英國婦人が致して居りまして、漢文だけは支那

人の教師が一人居りました。これ等の英國婦人は三十年も支那人の教育に従事して居られるのであります。支那語も自由自在に操つて意思を十分に發表することが出来る。それから遺憾なく教授を致して居るのを見まして非常に私は感心いたしました。始めに見ましたのは幾何で御座いました。其次の教授は西洋史でありましたが生徒が英語で讀みます。それを支那語に譯して聞かせて居りました。其次の教授は唱歌の教授であります。譜は西洋の歌は漢譯で、多分讚美歌か何かでございます。せう大變神様の有難いといふ歌でございます。スツカリ漢語に譯しましてそれを生徒と教師が一緒にいつて謡つて居る、さういふ風に教育して居る、學校の敷地も非常に廣く設備も完全して居る。教師は二十年も三十年も支那に居る人でありまして、教育といふものは斯ういふ風に始めて目的を達することが出来るので、又外國人を教育するには斯ういふ風にやらなければならぬ事であると非常に羨しく感心して見て參つたのであります。それから師範學堂の寄宿舎を參觀いたしました。

是れ簡易科のやうなものが出来て居ります、寄宿に参りますとコチラで使ひますやうな木の寢臺が幾つも並んで居りまして其枕元には洗面器の本箱だの色々並べてあつて其處らの様子は餘り紀律が正しいとは思はれないやうで御座いました。それから支那人の衛生のことでありますが、支那人の衛生思想は非常に幼稚でございまして少しも進んで居らぬ、傳染病の恐ろしいものであるといふ感想は殆ど無いと言つて宜い位であります、例へば熱病の患者がございまして其排泄物のやうな物を總て往來に棄てる警察の方でも八釜しいことになつて居りますが、詰り銘々の衛生の心が進んで居りませぬから深く注意も致さないのであります、最も甚だしいのは人が死にますといふと其死骸を自分の家に永く止めて置く、夏の暑い時でも六十日位家に置のでありますからドンなに丈夫な棺を拵へましても板の隙目から自然と汗が流れ出す、汗が出るから臭氣が甚だしく蠅がたがる、さういふものを家に置くのであります、それから可笑しいお話は石炭酸と云ふものは消毒になるもの

だからアレを持つて居ると毒が消えて仕舞ふといふことを聞いて居りまして、或る支那人が友人の不幸であるからは是非お悔に行かなければならぬ、それが夏のことでございまして何んでも流行病に違ひない、日本人の所謂傳染病で死んだに違ひない、それでも友達のことであるからどうしても行かなければならぬ、色々思案の末ハンカチーフに石炭酸を浸して行けば宜いと云ふことを考付きましてハンカチーフに石炭酸の濃いのを十分に浸しまして悔に行きますと、一體アチラでは悔みに行くとは泣くと云ふのが一般の習慣でありますから是非泣かなくてはなりませぬ、さうして泣いては其強い石炭酸の浸みて居るハンカチーフで目を拭きました歸宅後鏡を見ましたら顔が黒焦になつて居たと申します。それから一つ滑稽なお話は支那では赤ン坊が生まれても直ぐに産湯を使はせるといふことはなく、生れると先づ赤ン坊の體を拭いて置くだけでありまして漸く三日目位になつてお湯を使はせるといふことであります、さう云ふ譯ですから産婦

も赤ん坊も随分不潔ださうであります、さうして着物は御承知の通り袖が細うございますから着せることが出来ないで生れたては風呂敷に包んで置く、少し體がシツカリして來てから着せる、又アチラは水が非常に不自由でありますから水を節約することは非常なものである、水をゾンザイにするとは神様の罰を蒙ると言つて居る位で、私其なとで高い水でお湯を立てるものですから日本人はもつたないことをすると言つて居りました、或時日本の産婆がお産に頼まれて、産湯を使はせるからお湯を持つて來て下さいと言ひますと、小さな藥罐を提げて來ましたので、是では足りないからモット持つて來て下さいといふと又藥罐に持つて來た、まだ足りないといふと今度はお茶碗に入れて來たと云ふやうな譯で閉口したと云ふこととであります、さうかと思ふと又中には突飛の支那人がありまして支那の水は汚ないから總て淨溜水であればならぬと云つて淨溜水を使ふ人もあります、是等は極く稀な例でありますがさういふ人もあります。

それから日本人の小學校は公使館内に一つ立つて居ります、教師は日本の何處かの師範學校を卒業した方で、其御夫婦に願つてあります、此方が教授上萬事お引受になつて生徒を六組に分けて教授して居ります、それから幼稚園がまだありませんから餘所の奥さん達と相談を致しまして子供會といふものを拵へて月一回開くことに致しまして、三つからの子供を連れて參ることに致しまして、それから支那人の幼稚園は北京に一ヶ所ございす、實踐女學校を卒業した支那婦人が設立者で、東京府の女子師範出身の方が主としてやつて居られます、生徒は四五十人位居りました。其科目は日本の幼稚園に倣ひまして保育致して居りますので子供は皆をとなしく喜んで致して居ります。日本婦人の會合としては一月に一回づつ婦人會を開きましてお互にお話をしたり或は各士の演説を伺つたりして居りました、其外天長節には公使館の夜會に招かれますし、又軍隊と日本人會と合併して祝賀會を開いて御眞影を拜し餘興には芝居、相撲と云ふやうに色々あります殊に此日は娛し

く暮しました。アチラでも菊は非常に立派なものが出来、殆ど日本の菊に劣らないやうな非常に大きな花を咲かせて美事でございます、其菊花を澤山飾りまして祝賀會を開かれるのであります、日本に居りまして、天子様の有難いことは勿論であります、外國に居りまして多くの國の人々から馬鹿にされず戰勝國の民だと言つて尊ばれるのは、天子様のお蔭であると思ひますと一層有難さを痛切に感ずるのでございます、さういふ風に私共は榮譽ある國民として外國で生活して居りましたが、只一つ情けなく不名譽と感じましたのは……他の國にもあることで支那ばかりではありません、日本の醜業婦の澤山參つて居ることとであります。

夏の夕方など派手な浴衣を着て殊に人の目を惹くやうな風體をして醜業婦が歩いて居るのを見るとイヤな心地が致します、斯ういふ外國まで來て國の恥を曝さなくても宜からうと思ひます、さういふ醜業婦などが横行して居ります爲に時とすると良家の奥さんなどが迷惑をするとか往々あり

ます、實は私も或る夏の朝、車に乗りまして用達に行く途中でございましたが、獨逸の武官が、三人連れで馬に乗て來のに出會ひました、すると行違ひに馬の上から私の方を見てイヤにニヤニヤ笑つて居るのでございます、失禮な奴と思ひましたがアトで考へて見ると醜業婦と間違へたのでございませう、ア、いふ人達が北京に入込んで居りますのは残念でございます、私共と同僚の奥さんもちやういふ目にお遭ひになりまして、是は車から落されて怪我までされたのであります、それも矢張り醜業婦と間違へられたのであります、實に残念に思ふのでございます、残念序でにもう一つ残念なお話を申し上げます、アチラに喇嘛寺がございましてそれを見物に參りました、此御堂は幾つにも分れて居りまして皆堂守が附いて居ります、見物人の需に應じて案内して中を見せる、私共も參りまして見せて呉れと申しますと、見せることは見せるがお金を先に與なければ見せる譯にいかないと申します、ソんなことを言はないでお金は上げるからお見せなさい、イヤ日本人には金を先に

取らなければ見せない、私共が彼はソンのこと致して居る中に外國の武官らしい人が矢張り見物に参りますると其人達にはサツ／＼と案内して参るのでございます、何せソンのことを言ふのかと段々尋ねますと先達でも日本人が来て金は後でやるからと云ふので見せまして歸掛けに金を下さいといふと呉れませぬから跡を付いて行きますと、うるさいと言つてイキナリステツキで打ちました、以來さういふ酷い目に遭つて居りますから日本人には先に金を貰はなければならぬと申しました、これは若い人達が冗談半分にさういふことをしたのであらうと思ひますが、さういふ僅かなことの爲に日本人全體がさういふものと思はれますから残念でございます、支那人といふと日清戦争以來チャン／＼坊主、チャン／＼坊主と輕蔑して居りますから自然子供なども見習ひまして甚だ困つたものだと存じます、外國人は決してさういふことはしない、支那人だからと申して同一に取扱ひますから信認致して居ります、所が日本人だといふと皆瞞しでもするものか亂暴でもするかの如く考

へて居りますから、それも非常に残念なことだと思ひます、どうぞして支那人でも馬鹿にせず平等の人間としての交際をするやうにすれば況して同文同種の國でもございしますから單に政治上商業上の關係ばかりでなく一般個人の交際の上にも麗はしい交際が出来やうかと存じます、甚だ纏りませぬが時間が大分遅れましたから失禮いたします。(完)

痙攣に就て

醫學博士 瀨川昌耆氏談

私は今日コチラへ出る積りではなかつたのであります、が、昨晩下田さんが御出でになりました是非出て呉れ、代理をやつて呉れと云ふことで、代理のことでありますから碌なことは出来ないが、思付いたことを御話したいと思ひます、殊に私の持前は誠に面白くない方の學問でありますから御聴になりまして面白くないかも知れませぬが、

多少御參考にでもなれば本懐と致す所でありませう。それでどういふことを御話して宜いか、咄嗟のことで考もございませぬが、矢張り普通小兒にある所の病氣の御話であります、是は生れて間もない時から小兒期を通じて随分ある病氣なんです、本來この俗に引付けると云ふことを醫學の方で瘰癧と申します、此瘰癧といふのは本來病氣ではない、或る一の徴候になつて居りますが、此徴候が著しい徴候になると引付け引付けと云つて一時病氣のやうに考へて居ります、本來引付けと云ふのは種々の病氣の或る徴候になつて居りますので、先づ引付け即ち瘰癧といふのはどういふ病氣に來るかといふと小兒が生れてから直きに引付けると云ふことがある、それはどういふ譯で引付けるかと云ふと平産では餘りさういふことはないが、難産であつて出産の時に頸を強く壓迫するとか或は産科醫が機械で引出すと云ふやうな時に頭を壓迫する、頭を壓迫するから腦の中から出血する其出血の刺激に依つて瘰癧を起す、右の方に變化があれば左の方に瘰癧を起す、左であれば右半側に瘰癧

が現はれると云ふ譯であります、多くの場合左右兩側に來るといふのは極めて稀であります、些少の變化でありますれば癒るのであります、随分生れたての子でありますからどうかと思つて心配するが、輕症なのは大抵癒るのであります、これが腦の中の出血から起る第一の引付けであります。其次に生後間もなく來る瘰癧で最も危険な病氣は破傷風であります、此破傷風といふのは元來體に傷があつてさうして其傷からして破傷風菌と云ふ一種の微菌が這入つて毒を拵へ其毒の作用から全身に瘰癧を起す、勿論是は小兒ばかりでない大人にもあります、病氣で随分廣つて居る病氣であります、これは微菌がどこに多くあるかといふと土の中にあるのです庭の土だとか、或は溝泥、それから川の淵だとか汚ない沼だとか多く土壤の中に微菌があつてそれが爲めに傷があると其處から泥が這入り或は不潔なものが這入つたりすると微菌もともに這入り、それが原因で病氣になると能く溝板を踏外して足に傷を拵へて起つたと云ふ例

がある、或は田舎で漁師などが沿岸の泥の中を素
 足で歩いて傷を拵へてそれから病氣になつたとか
 或は園丁などが庭で怪我をしてそれから起つたと
 か、大抵足の傷から来る、それで其傷からして一
 旦破傷風の微菌が這入ると云ふと破傷風といふ瘡
 癰性の病氣を起す、其微菌は今日では能く分つて
 居ります、丁度大鼓の掬のやうな形で一方がフク
 ランで一方が長くなつて居る微菌です、其微菌が
 這入つて一種の毒を作つて其毒が全身に廻ると病
 を起す、其病氣の第一の兆候はドコで分るかとい
 ふと多く顔面に發する、顔が何處となく動かなく
 なる、表情運動が無くなつて顔が一體に固くなつ
 て仕舞ふ、さうして遂に口を開くことも出来なく
 なる、即ち咀嚼筋が固くなるから話しても返事が
 出来ず談話することも不自由になる、飲食するこ
 とも困難になる、其中に段々強くなつて来て、終
 に多少の瘡癰を起す、引付ける其前項部が固くな
 つて痛みを覺える、尙一層つよくなると脊中の方
 が強はばつて痛んで来る、それから手へ来て足へ
 来る、多くの場合として全身に廣がる、もうさう

なると手も足も何處も皆固くなつてチョツと人間
 のやうでは無い作つた人形のやうな工合に丸で棒
 のやうに固くなつて仕舞ふ、唯それだけならば苦
 痛が少ないが其固くなつて居る際に時々瘡癰を起
 す、瘡癰がひどくなるから身體が震へる丁度電氣
 でも掛けだやうに全身が震へる、其時の苦痛とい
 ふものは非常なもので其苦痛を訴へる様は傍で見
 て居れば位であります、此破傷風といふ病氣が生
 れたばかりの子に來ることがある、それはどうし
 て其毒が初生兒に這入るかといふと……初生兒に
 傷の有るやう譯はないが、臍の緒が落ちてまだ瘡
 痕が能く結ばない中にどうかして臍からして破傷
 風菌が這入ることがある、此破傷風の微菌は泥の
 中にある、然るに臍と泥とは間隔があるので、臍
 に泥が這入りさうもないものと思ふけれども、そ
 れが知らず識らずの間に何處にか附着して居つた
 のを知らずに汚れた手を以て臍を處置したといふ
 所から來るのである、詰り不注意から起るのであ
 る、であるから此病氣の子供にあるのは割合に下
 流社會に多い、上流社會では清潔に取扱ふから罹

る人が少ない、是も小兒のことであるからしてチ
 ョツと最初見悪い醫者でも馴れないといふと殊に
 依ると診誤ることがある、それでどんな風にして
 現れるかといふと顔が何となく變になつて泣かな
 くなる、泣いても餘り聲を立てない、それから矢
 張り顔が固くなつて口をつぼめるやうになつて來
 る、之が破傷風の小兒に來る特性である、それで
 之を俗に酸漿蟲といふ、丁度酸漿を口に含んで吹
 くやうな口付に見へるからでありませう、それか
 ら漢法家の方では之を臍風と言つて居ります、斯
 ういふ風に口に特徴があるから素人でも少し注意
 して顔を見ると直ぐと分る、それから乳を飲まな
 くなる、口へ乳房を含ましても十分に吸はなくな
 る、それで變だと云ふので始めて醫師に子供を運
 れて行く、まだ其時分は痙攣も何も起らないが、
 それが段々進んで行くと全身が固くなつてさうし
 て手足が動かなくなる、激しいのになると反り返
 つて全身を震はす、さういふ風になると多くは助
 がらない死ぬのが多い、けれども輕症であつて手
 當が早ければ助かるのであります、近頃其微菌が

發見されて以來之を治療するに血清療法と云ふこ
 とを發明した、どういふ治療かといふと先づある
 動物例へば馬に微菌の毒を注入する、始めから多
 量に注入すると抵抗力に堪えないで死ぬから始め
 は死なない位の極少量の毒を注入して次第に毒を注
 馴して行くと云ふと後には死ぬ位の多量の氣を注
 入しても死ななくなる、それは其毒の爲に一種の
 抵抗する力が馬の體に出來るからである、毒に抗
 する所の或物質が馬の體内に生ずる譯である、其
 物質は血清の中に存して居る、血清は御承知の通
 り血を澄して置くといふと血球が沈んで透明な液
 が残る其澄んだ所のものを血清といふので、血清
 の中には一種の毒に抗する所の物質が含まれて居
 る、ますからして血清を注射すると其力で前の毒を消
 して仕舞つて病が癒へる、此方法で今日やつて效
 を奏して居ります、實布の里亞なども恐しい、瘰
 らぬものとしてあります、血清治療が發見さ
 れて以來、早く血清療法をすれば何でもなく癒え
 ると云ふことになつたのであります、破傷風も同
 じ道理で癒ると云ふことになつて居るが、之はま

だ十分に效を奏する場合が少なく、詰りまだ非常に強い力の血清を製造することが出来ないのである、それで今日の所では效の有ることもあるが無いこともある、それはどうしてかといふと一旦破傷風に罹るといふと身體の或部分に變化を起す、其變化を起した所は藥を以ても再び元の状態に回復することは出来ない、それで其變化の起らぬ先に注射しなければならぬ、實布の里亞でもさういふ譯である、此血清は詰り毒を調和して癒すので微菌そのものを殺すのではないから實布の里亞なども癒つた後長い間その微菌が喰ッ付いて居るそれが段々生活力を失つても幾らか其殘骸が残つて居るが無害になるから病氣が癒る譯である、此療法を發見して以來治療上に稍々心を強うする場合に至つたのでありますが、まだ完全に奏效を見るに云ふことに至りませぬ、行きませぬが一旦破傷風と云ふ診斷が付いたならば寸時も猶豫せず直ちにこの療法を施さなければならぬ、以上は初生児に付ての破傷風の狀態の一斑を申したのであります。

それから此痙攣を起す病はまだ色々ありますが、矢張り破傷風と同じやうな工合に毒の力で痙攣を起す病氣がある、それは多くは腸から来る病氣です、日常御經驗になつた方もあつたかもしれませんが、多くの場合は子供が朝から工合が悪い、どうも不斷のやうでない、變な顔をして居ると思つて居る中に急に引付けると云ふやうなことがある、大抵二三才から四五才位の子にさういふことがある、それで驚いて醫者の所へ飛んで来る。醫者が診ると格別なことでもない、實際はなないのである、これは多くは大抵腸から来るので、其前日とか前々日あたりに食つた者が腸の中に溜つて居つて、それが或る微菌の作用で分解して毒が出来るから痙攣を起す、それでありますから直ちに浣腸を掛けて腸の中を洗つて出して仕舞ふと普通熱のある時は同時に熱が下がる、一回かソコもやれば軽いのは癒る、之は元は腸に蟲が出来て反射的に痙攣を起すと云ふことを言つて居つたと同じやうに腸に不消化の物があつて大便が蓄積してさうして其爲に反射的に腦を刺戟して痙攣を起すといふことを言つて居つ

たのでありましたが、近來では一種の毒が出来て毒の力で起る、それだから腸の中にあるものを取つて仕舞へば癒る、こういふやうに解釋する、さう云ふ場合に馴れぬといふと能く眞正の腦膜炎と診誤るゝことがある、腦膜炎の状態になつて度々痙攣を起すと段々意識も昏朦して來てボンヤリするの眞正の腦膜炎と誤診をして是は到底癒りませぬなど、宣告を與へることがある、さう云ふ時は後から行つた醫者は仕合である、前の醫者が助らぬと言つて見離したものを後の醫者が助けることがある、それでありますから痙攣が必ずしも危険だと云ふのではない、それは今申す通り腸から來る所の一種の毒が出来て其毒の刺激で痙攣を起すといふ状態である、之を普通痙攣と云ふものゝ中で一番多く見る所のものであります、それであるからしてさういふ時には今申した通り素人の處置としては自宅で浣腸することが出來れば早く浣腸を掛けて大便秘を取る、子供は寐かして置いて頭を冷して着物は堅く帶でも締めて居ればそれをくつろげておくのが宜いのである、それが自宅で間に合

はないで醫者を招んで來るといふ手當が遅れると其間度々強い痙攣を起すのであります。それから之も學校などで能く見る病氣、……痙攣といふ病氣であります、痙攣と云ふのは極く急に意識を失つてさうして口から泡などを吹いて所を構はず倒れて仕舞つて手足を頻りに震動さして身體全部に痙攣を起す病氣である、此痙攣と云ふ病氣は腦の實質に變化の有る者もあるが大抵は腦に變化がなくて起る、詰り神經の機能的障害といふ方に屬するのである、さうして持續性のものと持續性で無いものとがある、持續性の痙攣になると終には腦に變化を及ぼして遲鈍性に陥るのが持前である、それからイツ頃から起るものであるかといふと早いのは二三歳頃から起り掛ける、激しいのになると日夜數回起るものもある、又十日に一遍とか一月に一遍或は二年に一遍三年に一遍と云ふやうに起るものもある、度數は一定して居りませぬが、激しいのになると日夜度々起る、激しい程腦の實質に變化を起して遂にはそれが爲に腦が鈍くなつて痴呆狀になるものもある、斯ういふ種類

の病氣も學校などで時々見ることがありますが、決して驚くに足りないのである。瘰癧を起して居る中に死ぬと云ふやうなことは極く少ない、大概一時時期を過去つて仕舞へば癒るので瘰癧を起して居る際に死亡すると云ふことは殆んどない、瘰癧も危険のやうに見えるけれども大抵自然に任せて置いて癒る、それでも若し危険なる徴候があれば直ぐに相當の處置を施さなければならぬが、先づ大抵は風通しの宜い所へ連れて行つて靜かに寝かして頭を冷し帶でも解いてくつろげて自然に癒して置くといふと或る一定の時期を過ぎると癒る癒るといふと瘰癧が止む、瘰癧が無くなれば眠る、一眠りするといふと目が覺め自身は自身の出來事を少しも知らないといふやうなことで平生の元氣になるのであります、併しそれが頻々續けて起るやうな状態であると遂に床に就いて眞の病氣になつて仕舞ふものも無いとは言はれない、此の癩癧も矢張り瘰癧の中の一つである、それから又チヨイとした瘰癧を起す場合も澤山ありますが、是等が重なるものであります。

それから最後に申上げて置きたいのは腦膜炎腦の病氣の爲に起る瘰癧、是は瘰癧中の最も危険なるものに屬する、勿論腦膜炎にも癒る症と癒らぬ症とがある、癒らぬのは結核性に原因するので之は癒らない、さうでない所のものは大抵癒る、併し場合に依ると之は結核性であるか、無いかと云ふ區別を中々診斷することが出来ない場合がある、腦膜炎で到底助からぬと云ふても出来るだけは處置して見なければならぬ、誰れが見てもモウ助からぬ駄目だと云ふのでも時に依ると盛返して來て段々宜い方に向つて來ることもある、極く小さい哺乳兒と少し大きな子とは多少趣が違ふ少し大きな子であると直ぐ分り易い、それとも哺乳兒に發する場合は御承知の通り哺乳兒は口もきけず自分訴へる處の知能が無いから問ふても答へること出來ない、それで先づ大概どういふ風にして起るかといふに哺乳兒の場合には乳を飲んでも其乳を能く吐きさうにして泣く、大抵吐くけれども飲む度毎に吐くといふのではない、一日の中に二度吐くとか三度吐くとかする、それから大便が秘結する

こともあるし、下痢することもある、下痢する時は不消化が原因するのである、大抵小児の便は黄色でネツトリとしたやうなものでなければならぬのに、それが黒い色だとか或は緑色になつたりする、乳を吐いて緑色の便をする時は大抵小児に異常があるのである、それから平生極くおとなしい子が始終八釜しいことを言ふとか、又平生元氣能く遊んで居る子供が玩具などを見ても見る氣がない、只だ母親に懷かれてばかり居りたがる、さういふやうな状態になると、中々油斷が出来ない、けれども併しそれだけで以て腦膜炎の判斷は出来ないのだであるが、さういふやうな状態が哺乳兒の腦膜炎の徴候である、それから較々長じだ子になると多く自身で訴へる、何と訴へるかといふと頭痛を訴へる、之が最も特有な徴候である、幼稚園や學校などに於て能くさういふことがある、之も始めの中は激しい頭痛でもない、又氣分も大してさう悪いといふのではないから朝などは學校へ行くと、どうかすると途中で痛み始めて途中から戻つて來ると云ふ事がある、それから食慾が進まな

い、不斷のやうに物を食べなくなる、又何となく元氣が衰へる、少し氣分が宜いとマア遊んで居るが、又ゴロ／＼寝たりする、動もすると頭が痛いといふことを訴へる、斯う云ふやうな鹽梅でありますから最初は風でも引いたのであらうと云ふことで過去る、それが三日經ち四日經ち五日經ち中はどうも之は只單純な風でないといふので始めて醫者の所へ駆付け、變だ腦に變化がありはしないかといふやうなことになる、子供は頻りに頭痛を訴へる、頭が痛いといふやうなことを言つて元氣が振はなくなつて來ると云ふ場合は余程注意しなければならぬのであります、随分中には亂暴な家庭になると其位では差支ない學校へ行つたら宜からうなど、言て當人の進まないのを無理に學校へやるやうな親達もあるやうであります、さういふ場合は甚だ危險でありますから早く注意をして醫師の治療を受けなければならぬ、頭が痛み熱があつて食物がいけないといふ場合には矢張り頭を冷してやる、さういふ風に聲を出して頭が痛いといふ泣叫ぶやうなことは哺乳兒にはないが、モウ

さうなつて來ると腦膜炎と云ふことが十分に備つて居るのであります。

それから少し注意すると分ることでありすが脈が遅くなつて來る、子供の脈と云ふものは非常に早い、一分間に百位打つ、少し熱でもあると百以上になる、その反對で熱があつてさういふ状態でありながら脈が減つて七十打も六十打ちそれとも正しく打つて居らない、三つ打つては止め、十打つては止めると云ふ風に時々切れ／＼に打つといふのは既に腦膜炎の特有の徴候である、是は哺乳兒にも來るのでありますから、前に申したやうな症状があつて今のやうな遅い不整然な脈であるといふと醫師の診斷も直ぐ付くのである、それから膜膜炎の進んで來るのに二タ通りある、非常に沈衰するのと興奮するのとある、興奮する方は頻りに痙攣を起す、殆ど日夜間斷なく續け様にブル／＼震はす、手足を固くしてさうして全身を震はせる、さうでない沈衰の方は多く寢てしまふ、さうして手足も左ほど固くならず——少し位固くなるけれども震はせるといふ程でもなく、殆ど昏

昏たる状態を呈して目を閉ぢて眠り次第にそれなりに精力が衰へて死んで仕舞ふのもある、又眠つて居る間に時々震へるやうなものもある、多く死に近付くといふと痙攣が止んで仕舞ふ、止んで仕舞ふからして良い方に向いたのであると油斷をして居るとイツか麻痺症に陥つて居るので、死に瀕して居るのであります、先づ痙攣といふのは斯んな風でありますチヨツと思付きました概略を申上げました。(完)

日本婦人の姿勢

醫學博士 田代義徳氏談

●日本婦人と西洋婦人 單に姿勢と云へば睡眠の状態も跪坐の状態も皆等しく姿勢であります、併し私が今茲に言はうとしますのは立姿と行姿であります、そこで日本婦人の立姿と行姿とを西洋婦人のそれと比較しますと大變に違つて居ります、これは敢て私一人の見るところではありません多

くの知人に尋ねて見ましても皆確かに違ふと云つて居ります、西洋の男女に聞いて見ても矢張り其通り答へます、いかに生れた國が違ふからと云つて、同じ人間でありながら何うして斯様に違ふのであるかその相違の點を説明しやうと云ふには、各國の婦人が皆それ、特長短所を異にして居て、恰も西洋婦人と日本婦人と違ふやうに違ふのであるか、或は人種の異同が關係して居るのか、是等を研究して何れが果して目に佳い姿と云ふもので有らうか、又醫學上から考へて姿勢と云ふものが何う云ふ問題を解釋するか、醫學上美術上から云ふ處の模範的姿勢と云ふのは何う云ふので有るか、西洋婦人と日本婦人と何方が模範的姿勢に近いかと云ふことから説いて往かなければなりませぬ、我國の婦人だけに就て見ても殆ど其姿勢は千差萬別であつて、決して一ツ型ではない、又昔の人と今の人とを比べて見ても大變に違つて居りますが、要するに今日の婦人の姿勢は屈み勝ちであります、が然らば其屈み勝ちの姿勢が模範的に近いのか、何うか若し模範的でないとするれば何故斯

の如き風姿を爲すに至つたか、是等に就いて多少私の意見を述べて見たいと思ひます。
 ▲模範的姿勢 私には婦人の模範的姿勢を正容と申して居ります、即ち婦人の正容とは何う云ふのを指すかと云ふに縦の直線が頭部の中心から耳を通つて脊髓の下部を通り股の中心より足部の中心に達する、是れならば申分のない模範的姿勢であります、人體の脊髓と云ふものは一體眞直であるべきものですからそれ故誕生前の嬰兒の脊髓は眞直であります、ありますけれど、這ひ、立ち、歩き始めると頭部の重さが加つて、其結果脊骨が曲つて來ます、其曲り方は上半分は外に、下半分は内に曲ります、これに筋肉を附けますと、體の容は肩が後に反つて、腹部が前に出るやうになります、さうして其立姿は少しも筋肉の力を惜りず自然の儘に悠然として居ります、西洋婦人の立姿は先づこれに近く此模範的正容に對して憎容と名けました姿勢は、胸が引込んで中心點より脊髓が餘計後に傾き足も中心より少し後に曲つて居ります、我國の婦人の姿勢は之に近いのです、併し又脊髓側撃と云

つて脊骨が側の方に曲る、これは病的の姿勢であります、これは西洋婦人に多く私の見る處では我國の婦人には割合に少ないと思ひます。

▲東西婦人の胸の長短 婦人の模範的正容を見ました上更に各國婦人の立姿を見ますと固より爾う大した相違のあるべき筈はありませんが、只何となく歐羅巴婦人の姿は目に立つやうに思はれます肉附の工合から胸の長さ、四肢の長さの比例等が宜いのです、併し此處に一つ御話をしなければならぬことがあります、それは好く世間の人が歐羅巴の婦人は胸が長いから姿が佳いけれど、日本の婦人は胸に比して足が短いから格好が悪いと言ひますが、足の短いと云ふことは一體衣服を着た上に於ては差支のないことであります、實際を云へば西洋婦人の足は、胸に比して長くはありません(西洋の男子は長い)ので、足が長く見えると云ふのはつまり衣服の中心が、上の方に取つてあるからで、言ひ換ふれば人工的に下部をスーツと長く見せるやうに着附けて居るのであります、日本でも十四五の娘が堅矢の字を脊負つて立ちます

と、非常に下部が長くなつて、人の眼に美しく見えます、裸體になつた時多少足が短くてもこれは衣服で隠すことが出来ますですから、衣服の中心點は肉體の中心點とは各々別でなければなりません、或人は日本婦人の足の短いのは何か人種が下等であるかの様に考へて居ますが是は大變な間違ひであります、又日本婦人と西洋婦人の足に就て異つて居る點は、西洋婦人の足は細いのですけれど日本婦人の足頸は一足は小さいけれど一太いのであります、夫から西洋婦人と日本婦人は容に於て相違の點を擧げて見ますと、西洋婦人は肩巾が狭く、腰部が廣いのです、それに反して日本婦人は肩巾が廣く、腰部が狭いのです或西洋人が日本婦人の美は、ふつくりと圓味を持つた肩の工合にある、日本婦人の肩はいかにも美術的に出来て居ると評しましたが、いかにも西洋婦人と比して此邊にも體容の相違が見出されるのであります。

▲日本婦人の今様と古風 日本婦人の今様姿は申すまでもなく皆様が御承知の通りであります、

古の日本婦人の姿勢は矢張り今のやうであつたかと云ふに、私は多少違つて居つたと思ひます、それは古い彫刻物或は浮世繪等に就て見ても分ります、古くからの文學者の筆に描かれたもので古の婦人の容姿を知るに足る所の何か参考になるものはないかと思つて、いろいろ調べて見した處が萬葉集の中に「腰細のすがのおとめ」と云ふことがあつて、婦人の美容を誇つて居ります、又竹取物語の中にも腰細云々の語があつて、古の日本婦人の姿勢に就ては貌のことはいろいろ書いてありますが、容の上では腰部のことだけであつて此處に重きを置いたことがよく分ります、但し昔からの腰と云ふのは主に下半身を云つたのです。

▲西洋婦人の今昔 西洋婦人の姿勢も亦現在の婦人と古の婦人と石膏彫刻などに因て見ても相違のあることが分ります、昔の婦人の立姿は少しも筋肉の力を用ひないで悠々と立つて居るやうに見えますが、現在の婦人は多少筋肉の力を用ひて居ることが一體の容子に見えて居ります。

▲彼我婦人の體容 日本婦人と西洋婦人との體容

を比較して見ますと、西洋婦人の骨盤は前方に傾いて居つて其傾斜が甚だしく、それに比して日本婦人は傾斜が少なく、割合に水平になつて居ります、此骨盤の傾斜の割合で姿勢が違つて來ます、御承知の通り西洋婦人は踵の高い靴を穿きますから自然骨盤が前の方に傾き、從て胸も前の方へ出るやうになります、此踵の高い靴と日本婦人の姿勢とのことに關し多少研究をして居ることがあります、と云ふのは明治時代に女子教育が盛になつた結果、嚮後婦人の姿勢が多少變遷するで有らうと思はれ又既に變遷しつつありはしないかと思はれます、それは主に衣服穿物などに關係して居るので、女學校に通ふ女子が高いつの尖の細い靴を穿きますと其體の容は自然違つて參ります、それは皆さんが踵の高い靴をお穿きになつた時と普通の草履なり下駄なりをお穿きになつた時と、體の調子の違うのを考へになつても直ぐに分ります併しなから此踵の高い靴と云ふものは、歐羅巴人が穿いてもあまり上品なものでありません、況して日本婦人が僅かに一時間や二時間穿いた處で別

に風姿を上げる譯でもなく何の益もない話であり
ますから先づあまりに飛び放れた姿はしない方が
宜しからうと思ひます。

▲婦人身體の特長 一體男女の身體と云ふものは
男子は何處までも角張のが特長で、それと反對に
婦人は何處までも圓くなるのが特長です、婦人は
姿勢でなく恐らく心も圓満に發達しなければならぬでせう、けれども、身體がギス／＼して角張
つて居るやうでは婦人の本性を失つて仕舞つたも
のと云つて差支へありません、生理上婦人の皮下
脂肪組織は全然男子と違ふのでありますから、婦
人はどんなに痩せて居ても何處か圓く見えます、
又模範的の圖を見ても古い繪を見ても石膏を見て
も婦人の身體は自然に圓くなつて居ります、殊に
前に申した腰は最も大切で譬へば踊にしても相撲
にしても劍術にしても柔術にしてもいくら手振足
踏が好くとも腰付が悪くては駄目であります。
▲姿勢と意思 昔からの日本婦人の姿勢を古い彫
刻繪畫等で見ますと、奈良朝平安朝鎌倉時代室町
時代足利時代徳川時代江戸時代明治時代と云ふや

うに同じ國に於てすら、時代に因つて多少異つて居
ります、これは獨日本許りでなく西洋婦人でも希
臘羅馬時代と今日の姿勢とは大變違つて見えます
斯の如く姿勢の變遷する處を以て見ますと、姿勢
と云ふものは人々の意思に因つて或程度までは變遷
するもので有らうと思ひます、何故なれば人軀の
骨盤關節と云ふものは、動くものでありますから
之に附着する筋肉に因つて姿勢を氣を附けることは
隨意に出来るものでありますから、即ち其姿勢は
時代の狀況好尚等に因つて相違を生ずるは分り易
いことで、時々刻々多少變遷しつゝあるに相違あ
りません。

▲姿勢と衣服 姿勢に影響するのは衣服、結髪、
穿物、家屋の建築、作法等であり、彫刻繪畫
等に因つて奈良朝時代の風俗を見ますと彼の時の衣
服では勢ひ屈み勝ちにはなれませんが又平安朝時代
の垂髪なども自然反身にならねば居られませんが、
其垂髪などの例は遠く古を温ぬるまでもなく今日垂
髪的女學生が往來を歩いて居るのを見ますと、體
が真直になつて恰好が大變宜い、身長も古の人の

方がスラリとして居る、併ながら是れも今の婦人は大變に丈を盗んで居ります、即ち巾廣の帯と云ふものは巾の狭い帯に比して丈が低く見えます、それから又同じ歩くにしても疊の上を歩くのと住來を歩くのとでは自ら姿勢が違ひます殊に高い足駄を穿いて砂利の上を反つて歩くことは誰にも出来ません、自然俯向くのが當然です、それから端坐と云ふことは全身の筋肉の働きを要するので一層草臥れます、腰を掛ける方が餘程筋肉が休まります、肩の凝ると云ふことは日本人の特有でこれなども或は坐る爲めではないかと思はれます、斯様に姿勢と云ふものは周囲の状態に關係するものでありますから自然に任して置いて何うでも宜いものと考へて居つては、大變な心得違ひでありますから成る可く等閑にせず美き姿勢を保つやうにしなければなりません。

▲端嚴なる姿勢 姿勢は單に美の上から言ふばかりでなく孔子も容儀を整へることに就ては常に注意を怠られなかつたことは論語を御覽になつても分ります、情弱にして捨て、置けば姿勢は段々醜

くなり、單に醜いと云ふだけならば當人の損に止まりますが時に或は病を惹起し、前に言ふ柱側變など、云ふ病氣になります、一度此病に罹れば醫師が治療に苦心してもなかく癒りませぬ之を豫防するのは常に姿勢に注意するより外ないのであります、尙姿勢は單に外形に現はれて、之に對する人に美醜正情を感ぜしむるのみならず自分の精神的に及ぼす力も亦尠くありません、苟くも姿勢が亂れて居りますれば自分も易く人も忸れ易いから戲談の一つも云つて近づき、遂に深き誘惑の淵にも陥るやうな事になります、姿が端嚴であります、一言の戲談を云ふにも人が遠慮を致します、其外常人に取つて好い姿勢は自分の心持を清らかに致します、例へばむづかしい書物を讀むとか、又自分の心持が特に正しい時には、如何にも姿勢が正しくなり、それに反して心に弦みの生じた場合には、いつか姿勢も崩れて來ます、作法の書を見ますと、凡そ禮の要は容體を正しうするに在り云々とあつて、確と坐つて手を膝の上に置くと自然心地まで改つて來るもので

大に注意すべきことであります。

▲明治式模範姿勢 扱現在の日本婦人に向つては如何なる姿勢を要求したら宜いか、姿勢は其時代の意思に因て種々に變遷するものでありますから明治時代に於ても必らず時代に適當した姿勢が自然に起るとは思はず、或は既に多少明治時代を代表すべき風姿が現はれつゝありはせぬかと思つて居ります、そこで我々の要求する點は婦人の心が圓滿でなければならぬと共にその體も圓く何處までも優美でなければなりません、併し單に優美だけでは可けません、麗はしく優しい中に崇高と云ふ處があつて、而も堅實清新で成る可く情容を避け何となく心の堅固を示す正容でなければなりません明治の聖代は實に我國歴史上大切な時でありまして我々が今奈良朝平安朝と古に溯つて研究をして居るそれにも増して、更により大なる熱心をして千年後の我々子孫は此明治時代、或は東京朝に於ける諸般の研究を爲すで有らうと思ひます、此光輝ある時代に形造られたる婦人の姿勢は是非共前に申す優美、崇高、堅實、清新の四條件を具

備し後世の模範として恥しからぬものでなければならぬと思ひます其模範としてしは外國に例を取るまでもなく、奈良朝時代の遺物として正倉院に保存せらるゝ吉祥天女、光明皇后の御像を模寫せる觀音像、鴨毛の屏風の婦人像などは最も立派なものであると思ひます

兒童に對する尊敬

キング博士演説

◎「天國に於て大なる者は誰ぞや」との弟子の質問に對し、耶穌は殊更に嬰兒を召びて弟子達の前に置き、嬰兒の如く謙遜なる者が天國に於て大なる者なりと諭し、最後に「爾曹この小子の一人をも慎みて輕視する勿れ、彼等が天の使者は天にありて天に在る吾父の面を常に觀ればなり」と教へられた。又當時の人々が其の祝福を受けんとて孩提を耶穌の許に連れ来るを見て弟子等が之を差止めんとしたる措置に對し、耶穌は甚く之に憤激して弟子等を戒しめ、孩提を抱きて之を祝福せられた。

此等の記事によりて見れば、兒童に對する耶蘇の態度と弟子等の態度との間に大なる差違あるを知ることが出来る。

◎耶蘇は「嬰兒の若くならずば天國に入ることを得じ」小子の一人を躓かす者は磨石をその頸に懸られて海に沈められん方なほ益あるべし」と云へり。以て其の兒童に對する考へを窺ふことが出来る。同時に如何に熱心に之を教へ、弟子等が如何に強く之を感じたかは、同一の記事が三福音書共に記され約翰の書にも書かれて居るのを見て知ることが出来る。而かも此教訓が眞に解釋せらるゝに至つたのは軌近の事に屬し、近世の兒童教育は此の思想の結んだ果である。

◎小子を輕視する勿れとは兒童の人格、性質、價値を輕視すべからずと云ふに歸着する、兒童の性質は高尚なる徳を代表し、聖人天使の徳を代表して居る此の徳は勉めて之を尊重して保存し養成せねばならぬ或人が兒童は生けるクエツションマールクであると云つたが、事毎に研究的にして素直に受け容るるものである、換言すれば總ての印象に

對して感じ易い信用し易い、特性を持つて居る、故に彼等の注意は常に次から次へと遷つて行く、之れ一の事に熱心でないと云ふにあらず、何れに對しても熱心なる結果である。ウオルヅウオルス曰く幼兒の一日は大人の廿日に價すると、蓋し兒童に取りては古いものとはなく萬事皆な新奇である、彼等は此の新奇なる森羅萬象を驚きの眼を以て觀察し、十分智識を貯えるのである、此の特性は人間の向上と云ふことに大切なもので、彼等は時として答辯に苦しむが如き馬鹿氣た質問をすることもあるが、然し此種の性質は何處までも尊重し同時にこれに學ぶ所がなからねばならぬ。

◎第二の特性は無邪氣に信用すると云ふことである。若し信用し得ざる兒童あらば夫は特別にませたる兒童か又は街兒の類で普通の兒童は皆無邪氣に人を信用するものである。此の特性は長するに及んで謙遜の心となり、教を承け愛を承け容る態度となるのである。「嬰兒の若くならずば天國に入ることを得じ」とは此の謙遜の態度の重要なことを云ふのである。此の態度は須らく尊敬すべきも

ので、亦た吾人の兒童に學ぶべき所である。彼の學者とバリサイの人を攻撃して寧ろ稅吏や娼妓の天國に入るは安しとあるは、此の眞理を道破したものである。

◎兒童はその愛せらるゝ事を自信するものである、此の自信は人間の向上に極めて重要なものである。耶蘇の希望は人間が神の愛を自覺せんことにあつた。蓋し此の自覺なければ神を容るゝこと能はず、今日の傳道の困難は何時も此點に存して居る。高慢と愛に對する自信なきことゝは恐るべき罪である。此のために心の戸は堅く鎖され向上進歩は期せられない、或人は罪の中の罪は兒童の如き心を殺すことなりと云つたが、蓋し此の無邪氣なる自信の尊重すべきを云つたのである。

◎「爾曹この小子の一人をも憚みて輕視なかれ」とは、兒童の特色を輕視すべからずとの意で、兒童の人格を尊敬すべしと云ふに歸着する。兒童は親の財産にあらず、其自由は飽まで之を尊重し、決して束縛すべからずとて、耶蘇は兒童の人格を蔑視し之が自由を束縛することに熱心反對せられた

のである。

◎兒童は年長者殊に親に對しては多大の信用を置き、時としては其眞價よりも以上に信ずるものである。故に又時々馬鹿げた問題を出して來ることがあるが、此等の間は寧ろ獎勵すべく、決して之を笑つて其の信を破つてはいけぬ、親にして兒童の信を破ることは不注意の甚だしいもので、實に寒心すべきことである。

◎兒童はそれ相應に苦勞心配を持つて居る。曾て余の弟が他の子供と遊んで居る時に仲間の耳に大小の議論が出で弟の耳は小さいと云つた、そこで弟は泣出して家に歸り母に訴へたことがある。大人から見れば耳の大小は問題にならないが兒童の小さな胸には大問題である。怒る場合には兒童の胸中を察して同情してやらねばならぬ。或る子供が指を傷けたとて親の所に泣て來た時に、親は何か忙しいことがあつたと見え「やかましい彼方へ行け」と叱り飛ばした。かゝることは兒童に取りては大打撃である、此の場合「オ、痛かつたらふ」と慰めた所で時間の上に於ても手數の上に於ても

格別の損はない筈である。如何に忙しい時でも
 同情と云ふことを忘れてはならぬ殊に兒童の口に
 出す所は一部分に過ぎずして、多くの苦痛や心配
 を胸に藏して居る。又た子供相當の希望を持ち、
 之がため奮闘もし向上もしやうと努力して居るか
 ら、此等は察して同情してやらねばならぬ傷める
 草を折ることなく煙れる麻を熄すことなし」との
 心もて兒童に對せねばならぬ。

◎使徒パウロは子供を怒らすべからずと云つたが
 恐らく彼の經驗より出でし教訓と思はる。此の意
 味を敷衍すれば左の意味となる。奴鳴つて怒らす
 な、冷罵するな、子供の面前で悪い奴だと云ふべ
 からず又たお前は悪いが誰某は善い子だ之を模範
 とせよと云ふが如きはいけない、子供の獨立心を
 損するな無暗に試験をしたり苦しめたりしてはい
 けない。

◎最後に兒童の價値を尊重すべし。彼等が天の使
 は天にありて天に在す吾父の面を常に覲ればな
 り。兒童の價値は無限なり、故に之を尊重すべし
 との結論に歸着する。此の教訓は先づ幼稚園とな

りて現はれた。彼のベストロツチーが子供に取り
 卷かれて居る像は我等に偉大なる感ぜを與ふの
 であるが、兒童に對する要義は結局愛と尊敬にあ
 り。如何に方法手段の完全するも、兒童の人格、
 性質、價値に對する尊敬と及び之に對する愛がな
 れば兒童の教育は成功しないのである。而して兒
 童を尊敬し之を愛するは同時に神を尊敬し神を愛
 する所以である。耶蘇曰く「わが名の爲に此の如
 き一人の嬰兒を授る者は我を授るなり」と。

婦人と園藝

梅の花は既に散り櫻を首め種々様々の花が追々に
 咲き出さうと云ふ、一年中の最も楽しい春は是か
 らです。申す迄もなく若草が毎日に伸びるので野
 原は廳て一面に青い絨毯を敷き延べた様に成り、
 木の葉も亦何時となく滴らん許りの縁を飾りませ
 う。斯く愉快な陽春の季節は蔬菜の播種や草花の
 培養や樹木の植付けに至極適當なのだから、此好
 機を逸しないで、近頃世間に喧傳されて居る園藝

を試みては如何です。

園藝に手を着けると愉快な春が一層楽しく送られるので、一度其面白味を覺えたが最後、到底之を

忘れることは出来ない位、然るに我國の婦人には

兎角引込思案のものが多く、斯る結構な事柄に對して殆んど注意をすら拂はない勝であるのは残念

と云ふよりも寧ろ不思議と申したい。園藝の普及には婦人の力を要することが澤山にあるので、先

以て家庭に此趣味を充實させねばならぬ様に思ひます。

それはさて置き、婦人の着用する衣服の色彩と其模様は千差萬別と申さねばならぬが、此等の色彩

と模様を見ると植物殊に園藝植物を巧に應用したものが如何にも多い。而もそれが雷に立派な葉を

着け綺麗な花を開く、普通の植物ばかりでなく、

隠花植物として蘇苔類や羊齒類や水藻類の如き、花

の咲かないものをも用ふる次第は今さら申す迄も

ありますまい。殊に近年は高山植物と唱へて雲を

貫く高山或は夏も寒い土地に生育せる植物を採つて参り、之を栽培して愛翫する人々が追増加し

たので、自然衣服などの模様にも可憐らしく又珍らしい此高山植物を應用するのが流行しかけて参りました。

天から與へられた自然物を應用するのは誠に結構なことなので、天然の風物を愛し且之を樂むと云

ふ様な極めて優美な思想は益盛に致したいが、我國の人々は男女ともに押なべて西洋人よりも斯

る念に富んで居ると思ひます。我國の婦人が生花や造花の如きに多大の趣味を持つて居るのも此邊

に胚胎したのでせうが、昔から園藝の途が開け、竹の園生にお育ち遊ばされた方すら之に對して趣

味を抱かれ、田夫野郎とても矢張り相當に此觀念を持つ始末となり、園藝に關する西洋の學問と技

術が輸入されてから、愈其進歩を見るに至つたのは、實に喜ばしい次第ではありませんか。

人間が快樂を獲る方法には種々あるけれど、園藝の様な自然の美妙を友とし、且之が發育を助ける

もの程、立派で優越で善良な事柄はあるまいと存じます。加之園藝と云ふものは他の人々を首め如

何なる方面に對しても更に迷惑を及ぼす心配や損

害を掛ける氣兼ねないのです。斯くまでに結構な園藝だから共進歩發達を謀るには、凡ての人々が残らず努力して然るべきことと思ひます。素より男子たる婦人たるを區別する必要はありませぬが、併し體質や性情の上から見ると寧ろ婦人に向つて特に大なる希望を繋ねばならぬ様です。婦人は其體質なり性情なりが泥に塗れて勞働せねばならぬ農耕の仕事には、聊か不向であるかも知れない、併し家庭の娛樂と適宜の運動位を主とする些やかな園藝の如きは男子よりも寧ろ婦人の方が進んで試むべきであるまいか。殊に我國の婦人の様に兎角屋内に蟹居し勝ちのものに取ては之を營むと自然に屋外に出て新鮮の空氣を吸へば太陽の光線をも受け得らるゝから知らず識らずの間に何時となく身體を強め精神を養ふ譯になること、と思ひます。

然るに其實際を見ると園藝にたづさはるものは大抵男子許り婦人は殆ど之に關係しないと申しても支ないでせう。婦人の中には園藝の仕事に執ものがあるのです。紀伊や駿河の密柑畑へ行くと

濃緑色の葉が繁つた間に滴らん許の黄色に赤味を帶た子實が房々と熟して居るのを赤い手櫛を掛けて婦人が暖かい日光を浴ながら探て居ます。又北海道札幌の町外づれに出ると、友禪染の帯を締めた婦人が、萌る様な榆の葉を透して吹く南の風を受けながら、可憐な草苺の栽培に餘念のない實況を認むるのです。此等の外にも苺蒲や薔薇や牽牛花や菊の様な花卉、或は尚芭や玉葱や甘藍の様な蔬菜の培養をする婦人は到る處の市街の附近に頗る多いではありませんか斯る業務に従事する婦人は繪畫や詩歌を現實にする次第なので、其胸の裡には恐らく浮世の邪念と云者がなく只管天真の妙趣を樂んで居るに相違なからうと存じます。

此等は皆普通の婦人乃至勞働者の妻女に就て申したのですけれど、園藝を營む婦人は固より此種の者のみに限られた譯で御座います。記者が嘗て新宿御苑を拜觀致した時に、此御苑の一部を割して種々様々の園藝植物が見事に栽培されてあるのを見ました。掛りの役人の話に據ると之は英照皇太后御在世の折に、思召によつて特に花卉や蔬菜な

どの園藝を營み始めたので皇太后には屢此園に行啓し給ひ。いつも御運動と御歡樂を執らせられたさうですが、皇后陛下にも度々行啓あらせらるゝとのことであります

所が一般の婦人は概して園藝に無頓着らしく見えます之は自然の美妙を愛する我國の婦人にも似合はぬ次第、布帛地に染出した花卉を愛して眞の園藝植物に及ぶないのは、全體如何云ふ譯でしやうか。生花や造花に熱心しても實際の花卉に對する趣味が乏しい爲に。飛だ間違のあるものを作るのは未だしも勢ひ面白味の半分より取ることが出來ない點に氣付かれないのですか、自身着用の衣服に染出してある植物の名稱すらも辨へない婦人の多いのは自然科學殊に植物學に疎い結果でありますまいか。此缺點を除くには園藝の趣味を飲込める人が最も早道、最も良好と思ひます併し婦人の園藝が單にこれだけの利益を獲るのみに止まると申す譯では御座いませぬ

園藝と申せば一寸むづかしくも聞えるので、深く立入れば奥底もない位です。併し座敷の前の庭に

幾株かの花を作るのも園藝、臺所の外の明地に少許の蔬菜を播くのも園藝、住宅の横町に果樹を栽ゑるのも園藝なれば、菜園に葛を蔓はせるのも矢張り園藝なので、差當り婦人に望む所は斯る手に近な事柄にたゞさはり、之に依つて先づ園藝の門に入り、其趣味を解せらるゝことなのです。固より眞の園藝家に成つて専門的に之を營む様に申す譯では御座いませぬ。唯家業の餘力を用て多少共此等の業に心掛け、娛樂と運動位を目的として園藝を試みらるゝ、所謂非專業家となれんことを希ふ次第。

田園生活と云ふ問題が近年到處で唱へらるゝ勢ひとなり、延て都會に居住せる人々が田園の風物を慕ひ、事情の許す限り熱鬧地域の外に出やうとするものゝ多い傾向を示す様に成りました。此傾向は頗る喜ばしい現象ですが、到底田園に引込むことの出來ない方々の中には、責めてもの憾みとして猫の額ほどの土地に花を栽ゑる木を培ふたり、窓の前に手の掌にも足らぬ鉢を並べたりして、樂んで居るものの中々多い。是等とて誠に結構な譯柄

と存じますが、都會に田園の風尚を加味するのは面白くないと云ふ一部の論者もあるかは知れないけれど、紅塵萬丈の裡に生活する人々が、之に依つて天然の美妙を味ひ得る許りでなく、優美且高尚な娛樂を取ることに出来るのは、至極喜ばしい次第ではありますまいか。又或論者は園藝を以て道德を高め風教を助くる點に大なる効能があると申します。いかにも植物は播種の始めから培養や施肥や灌水や整枝や驅蟲などの手數を経て其結果を收むるに至る迄の間、凡て皆自然の力を藉り、之に人間の力を添へる譯ですから些しの誤魔化しにも利かないので、始終正直に、誠實に遣らねばならぬ點が、自から道德や風教の補足となるに相違ありません。併し乍ら園藝なるものが積極的に此等の事柄に裨益するとは、聊か受取り難い様な氣も致します。唯手を之に染むるのを樂みとする爲に、勢ひ邪念を起し淫奔に近づくなどの處を滅する丈は、慥に間違ひのない事と思ふのですが、何れにしても園藝の効能は主として形而下の部面に多い様であります。

英國の某貴婦人は倫敦に於ける交際社會の花と歌はるゝ程で、其社交的會合の場所に此貴婦人を見ないことはなかつたのですが、身體の弱に爲に醫師からの勧誘もあつたので、俄に手を園藝に染めて花卉や蔬菜を仕立つたのを毎日の課業とし、それから殆んど交際社會に顔を出さなかつた。斯くて一年後に醫師から著るしく健康が勝れて來たのを賞められると、貴婦人は健康の外に二十萬圓の利益を得ましたと答へられるから、其譯を尋ねると交際費や小遣錢が餘つたのだと云はれたさうです。我國にも普通の婦人に有勝ちの虚榮心に駆られ、無理な算段をしてすら交際場裡に出入して、得意然たる方が澤山ある様に存じます。此等の婦人が心を園藝に轉ずれば、必ず彼の英國の貴婦人の様な結果を收めて、意外の利益をも見ることが出来ませう。

全體都會に住んで居るものは當に生活の爲に激烈の奮闘をなし過度に精神を使ふ許りでなく其空氣は田園の空氣の様に新鮮でなく而も日光に浴する機會が尠いから自然に健康を害して早世するもの

が多い。之は歐羅巴の書籍や統計表などにも掲載されて居るので殆んど疑ふべき餘地がありませぬ、斯る缺陷を排除するには先づ以て都會の人々に園藝の趣味を普及し公園は申すに及ばず道路などに出来る丈の樹木を植ゑ、各自の庭園にも亦能ふ限り澤山の植物を繁茂させるが肝要です此等は素より男子の爲すべき事柄に相違ありませんがさりとて婦人も亦決して之を度外視すべきではありませんますまい、尠くも自己の庭園だけの仕事に就ては婦人が其全部又は一部を擔任する様にありたいのです。

米國には多くの都會にシビック、インブルーメント、ソサイターと云ふ團體が組織され、公園や道路に樹木を植ゑ其美觀を添へることに骨を折つて居ます。而も此團體の仕事は半婦人に依つて營まれて居ると云ふて善い位、それから又同國の都會の居住者は何れも自己の庭園を立派に仕立てるに努むる許りでなく、家主の側に於ても多數の借家人の中で最も立派に庭園を仕立て、草花なり樹木なりを配植したものには數十圓乃至數百圓の賞

金を贈與すると云ふ始末なのです。従つて婦人連中は娛樂を外にするも、慾氣に驅られて園藝に熱心する有様なのは兎にも角にも結構なことと思ひます。

所が我國にては專業に營んで居る少數のものを除ば園藝が殆ど全く男子の手のみに依て營まれて居るではありませんか。それは米國の如き男女同權或は女尊男卑の國柄と大に趣を異にせる我國ゆゑ、彼と我と同様に論ずる譯に行かないと申さるゝかも知れないが、併し我國にては婦人が内助の任に當るものと成つて居る以上、家庭に於ける園藝などは内助の任を負へる婦人の須く手を下さすべき事柄ではありますまいか。殊に婦人は歐羅巴の詩人などから男子の強剛な性をオーク樹、即ち日本なれば黒松にたとへると同時にアイキー日本で申せば薦葛にたとへられて其婀娜な風姿を用て能く強剛なものに拵み付きつゝ、之が伸張を助け且之が危難を防止すると歌はるゝ位で婦人は家庭に在つて斯る役目を努めねばならぬものであるから愈以て園藝を擔任し家庭に於ける趣味と實益

の増進を謀らねばなりませんまい。
 今まで一度も鋤や鋤を握つたことのない婦人として
 餘暇ある折に數十分間づゝ之を手にする位は何も
 苦しみとならない許りでなく、却て愉快を覺える
 に相違ありません。而も其結果として可憐な花が
 咲いたり、美麗な葉が出たり見事な實が熟したり
 するのですから此味は解すれば解する丈け愈々面
 白く成つて何故早く園藝を始めなかつたのであら
 うと啣つ様に成らるゝことと思ひます。而も其成
 績品を親戚や知友への贈物とし或は植物生育の
 状態を知りて智識を研ぐの料とするなど意外の趣
 味と實益があるものです。我國の婦人には兎角引
 込思案のものが多くと思ひますが、併し又事に臨
 んで敢爲遂行の氣象に富で居ることは今更申す迄
 もないのだから、實地に園藝の試験をする積で差
 當り何なり一二のものを作つて見ては如何です。
 汁の實が出来ても内方の畑の煙のものであれば新鮮、
 清潔の上に優等の様な心地するから、何となう美
 味に感ぜられます。何は兎もあれ斯ういふ風のも
 のから實行を始め追々に經驗を積み熟練を重ねる

に従つて、六ヶ敷ものを作り珍しいものを植るこ
 ととすべきです今は丁度園藝着手の好季節だか
 ら、此機會を失してはなりません。
 (おはり)

保育叢話 (承前)

光藤夫人

鳥獸を飼養し植物を栽る事の子供に與ふる利益
 子供は元來動物植物を好み之をいぢる事を樂みとす
 る傾向がある様に思はれます。殊に男兒は空に
 飛ぶ鳥を追ひ、道を走る犬猫を見ましては、一寸
 立止まつて眺める位に興味を持つてゐる兒がある様で
 御座います、春夏などの蟲や鳥の多い頃には庭に
 飛ぶ蝶々を帽子で採る爲めに、かけめくり、トン
 ボを釣る爲に蟬を採る爲めにモチを竿の先頭につ
 けて庭園から野外にかけずり廻るのであります。
 兒等の熱心なる事はよし炎熱やぐが如く、汗ダラ
 ダラになりて、眼の落窪むまで疲勞しても、少し

も厭はず、蟬の泣くのを聞いては一生懸命竿を採て之をねらふのであります。女兒は少し趣が違ふ様で御座います、蟬を取るにしても、トンボを釣るにしても、男兒程の熱心はないのであります。寧ろ花咲く野邊に草を摘み、ツク／＼シを取る方が樂みが多い様であります、之は或は男女兩性の異なる點かも知れませんが、將來男剛に女子柔なるは已に其の天性であるのかも知れません。男兒が蟬取りに野外に出ますれば妹は蟬を入れる袋を持ちて、之についていつて草花をつんで居ります、されど之は勿論男女幼少よりかゝる傾向を有するといふ丈で、決して男兒は動物に、女子は花摘みをのみするといふわけではありません、只かゝる傾向を持つて居るといふ丈であります。田舎の廣々とした所では、子供が門外一步已に鳥あり、蝶あり、草あり、花ありといふ便利がありませんが、この都の中では工場や、商店や、宏壯なる家は澤山ありますが門外一步只いらかを並ぶる軒と大路小路に足る馬車、自働車、電車、紅塵にまみれて進み行くのを見るばかりで、青々とし

たる樹木や、研を競ふ花は、とても目に映じません。だから餘程周圍の感化を受けて子供が自然を離れて人工的に傾く風があるかと存じます、自然を離れて人工に傾き過ぎた人間は其の品性が下劣に起き易い誘惑が多い様であります、品性が下品になりますと高い人格の人間は作り得るに六ヶしいかと存じます。どうしても人間は、競争の場裡に立ちて、平和の競争をついけると共に、一方には自然の花に心を寄せ、或は月に、或は鳥に、或は雪に心ない草木に心を慰め、思を寄せて、しづかに曠大無邊なる森羅万象を樂しむといふ事が必要であると存じます、人生の激烈なる競争場裡に於て、或は得意の時もありませうが又時には憤怒を洩らすにやしない様な場合も必ずあるであります、此時もし其の眼中に、箱庭に咲ける美しい花でも、青々とした松柏でも映じました時に、之を看過すれば、其れ丈で御座いますが、之れをしる一種の趣味を以て見ましたならば、果たしていかに感ずるで御座いませうか、ア、嵐は吹くも、雪降るも、彼の樹は依然として、彼れ自身の特色を

發揮するにつとめて居るではないか我身萬物の靈長といはれて、向且つかゝる些事に煩悶し憤怒するとは、いかに其の心の幼稚なりし事よ、ア、耻し、心ない草木の笑を招く様など、そいろに其の草木を模範として、我が身心を修養する材料となす事もありませう、之等は只一例に過ぎませんが必ずこの自然の感化を受ける事が多いのでありますア、其の自然に遠かる都生活は一方益あると同時に其の損失も少くありますまい、無論一利一害は數の免れざる所と申しますれば、マー此都生活をするものは、暇を見出して自然に接すべく田舎に遊びて、其の風景を樂み浩然の氣を養ふ必要があると同時に、毎日往める我家にも成丈樹木を植え、動物を飼養することが肝要かと存じます、殊に子供多い家などでは出來得る限り動物をおいて、其の兒をして、自ら世話せしめる事が大切かと存じます、鳥でも、兎でも、飼養してよく幼兒に世話をさせますと色々利益がある様に思はれます。

第一、毎日子供に鳥の出入れやら食物を與へる

事をさせますと、親が子を育て、愛育すると同じ様に、幼兒が我が飼養せる動物を愛するといふ念が起ります、我が家の動物を愛するの念はやがて隣家の鳥を愛するの念となり、となりの鳥を愛するの心はやがてすべての鳥を愛するといふ念となります、こゝに於てか動物虐待の罪惡を説かないでも、彼は自然に動物を愛する様になります。

第二、動物植物研究の好材料であります、鳥獸の性質、常習、食物等其の他一般動物植物に關する智識は自然に得られます。

第三、實を得て樂む事、平素の鶏卵の食卓に上るときは兒等は何等の趣味も起らないで、食ふのであります、自ら手を下して之を愛育し、毎日毎日世話をした、鳥が大きくなりて産卵し、其の卵の卓上に上りし時、卵の身體に慈養多い事を言ひきかせますと、子供は言ひしられぬ樂みと趣きを以て之を賞味し、益々この鳥を愛育しやうとの念を鼓舞します。

第四、兒をして父母の鴻恩をしらしめる事が出來ます、時々兒童は遊びに耽りて、鳥獸の世話を等

閑にする事がありますと鳥獸はしきりに鳴いて食を求め、事をあります或は油斷して他の強い動物の餌食とならんとする様の事があります、此の機をばさず、子供等によく訓戒するのであります、お前達に世話を怠ると鳥はどうなります、マゝお前達に乳や御飯を與へて愛育する父さん母さんが其の世話をお怠つておいたならば、お前達は無事に生育する事が出来ますか、お前達の空腹でつらいのも、鳥の餌がなくなつてつらいのも、少しも變りはありません、お前達が危険に逢つた時親が之を救はなければお前達はどうなりますか、それと同じに強い動物の爲にツケネラハレて居る鳥をお前達が油斷をしたならばどんなになりますか、お前達のよく届いた親切な世話がありてこそ鳥は無事大きくなつて卵を産むのであります、お父様母様の心を碎き骨を折つて親切に世話をすればこそお前達は人並々に生育する事が出来るのであります、之を思へばお前達は必ず毎日父母の御恩を忘れて我儘ばかりするものではありません、よく父様母様の鴻恩をしりて、鳥が卵をしてお前達を喜

ばせる様に、お前達もよく勉強してよい子といはれ生長の後には立派な人間となりて父様母様を喜ばせなければなりません、といふ様によい訓戒の材料となるのであります。動物已にしかりて、植物とても同じであります、美しい花を開いて兒の丹精の勢に酬ひ、よい研究の材料となり心神修養の好材料となり、不淨なる空氣を新鮮にします等其の子供を益する事人生を利する事が多いのであります。』

幼児成績優等の故を以て賞する 事の過度ならぬ様注意する事

幼にして神童、中年に至りて、凡人となるとの謠は、よく耳にする事が御座います、梅檀は二葉より芳ばしいとか、大抵人間一生涯の基礎は二葉の頃即二三歳の頃に定まるのであるとか申します、一寸此の二例は矛盾して居る様に思はれます、が、皆様いかで御座いますか、私は之を次の様に解釋いたして居ります、或は間違つて居るのかも知れませんが、識者の高教が仰ぎたいので御座

います。後者の枴檀は二葉より芳ばしいとは千古の金言であると思はれます、凡そ其の兒が一生涯の間に環境の物事を知る事の多き生後一年半頃より、三年頃までが最も烈しい力を以ては居ますまいか、見るもの聞くもの殆んど彼等の智識とならぬものはないかと思はれる位で御座います、素より複雑な心理作用はありませんが、苟も彼等の心身を刺戟するものは死んど、この幼兒の智識とならぬものはないかと思はれます、昨日やうやう一語を覚えしと思ひしに、今日は其二語三語、日一日と智恵づく事のいかに目につきますかは、子を持たるゝ親御が皆實驗なさる所で御座いませう、品行論の中に人生れて、十八ヶ月より三十ヶ月に至るまでに外界の物事を知る事は其の他一生に知り得る智識より多いとかいふてありますが丁度此の邊の消息を洩らしたもので御座いませう、母親は殊に此の際に氣をつけて幼兒の保育の任に當らなければならぬ様に思はれます、三つ兒の心六十までの俗語も岐度此の邊の意味で御座いませう、どうしても

人間一代の基すべての基礎はこゝに作り上げらるゝ事と思はれます、よく幼時遅頓なりし子が生長して何でも機敏になつたとか、幼時成績の悪い兒が生長して立派な人間になるとか、幼時神童といはれし子が二十歳以後に至りまして凡人となるといふ様な例は數ふるに邊のない程澤山あります、ソレは或は幼時遲鈍でも其の短所を知りて其の教育法宜しきを得ますれば或は機敏となる事が出来ませう、或は幼時成績の悪い兒が其の教養法宜しきを得て、刻苦勉強立派な人になる事も出来ませうが、之等は何も幼時己に出来上りし人間の基礎が轉覆したものではあるまいと思ひます、只教育の結果、又自ら感奮して、自分を教育する事もありませう、或は他より教育さるゝ事もありませうが兎に角教育の結果の現はれたものと見て差支ないで御座いませう、之と同時に幼にして神童云々も只教育の結果であらうと思はれます、こゝに於てか幼兒成績優等なる兒に對して過賞はよくない事と存じます、幼にして神童が過賞の結果一生涯を誤りましたのも時々見受けた事が御座います。

私は嘗て或る學校で尋常四年生になる、成績の最優等で、しかも身體壯康眉目秀麗の神童を見ました、四年間續けて首席を占め、先生の受けは勿論他の衆多の兒も皆一目も二目もおいて居りました、實に全校の模範生とし、賞揚されたのであります、今日已に血氣盛りの青年となつて居りますが、凡人にも及ばぬ様冷落したとか、ほのかに聞きました、無論之は教育の仕方が悪かつたに違ひありません、餘り出来るくが評判になつて周囲の人から賞められますと、何も辨のない子供心に自負の念が増長しまして、満心は日一日と盛りになりゆき、終には自分ほど偉い人間はないと思ひ出します、こうなりますと人が馬鹿に見えまして、他人の言ふ事など餘り耳に入りません、そこで人からは嫌はれる様になります、ダン／＼自暴自棄に陥りて來ます、ついに普通のひとさへ及ばぬ様になるものもあります、之等は其の責が學校にあるのか、家庭にあるのか、又は外界にあるのか分りません、いづれにしましても、教育を誤つたに違ありません、そこで母親は又こゝに大に注意

がいますと思ふのであります、折角今迄丹精して、やうやく人にも賞められる丈の成績を取る様になつた、マー安心などと思ふが最後、其の後に其兒に及ばず感化がわるくなる事を忘れてはなりません、ぬので、安心と思ふのが害があるかと申しますれば、母親が安心と思ふのが油斷の初歩になります、油斷が歩を進めますれば必ず惡徳を其の兒に植ゑ付けます、なせならば、ついで子供を賞める事が度に過ぎる様な場合が起ります、嚴にせでは叶はぬ場所でもつい女親の弱い心からマーよく出来るから、少々位は過失は構はない、などと思ひ出します、それが少しづつ、一つと段々重なりまして、ついには我儘ものに仕立上げる事もあります、満心ばかり増長させるのであります、出來損ひの人物となつて仕舞ふのであります、私は最も恐れるのであります、人様から我が子供をほめられます時誰も悪い心地はしないと申しますが、私は衷心少しも善い心地がいたしません、嬉しきも何とも思ひませぬ、或はそれは心を偽ると仰の方が御座いませうかも知れませぬが、マー斷ちわつた腹

の中をお目にかけても宜しい、ホントに嬉しいなどの感じは少しも起らないのであります、なでならば之丈育兒に丹精して、之丈の結果の現はれますのは、理の當然と信じて居ります、只恐れます、このほめられる言葉がはしなく子供の耳に入り、そして自負の心の種となりはしまいか「或は満心を引き起しはせぬかしらんと、人がすべて向上しますのは、大抵自分が心に未だ及ばぬ、私はどうしても出来ない」と思つて、今少し出来る様に、せめてあの人位になどと色々一心不乱に我が又ばぬ所を自覺して居る時が、進歩の最も甚しい時の様に思はれます、子供でも矢張そうであらうと存じまして、少しでも外からアナタはよく出来るなど、言はれる時に子供心の正直にすぐ眞に受けて、自分はよく出来るのかなどと思ひましたならば、其處から進歩が止まるかと恐れます、どうか子供が幾らよく出来ましても、その出来る事を子供に知らない様にして、いつも及ばぬ出来ないので、自分はなせこゝ出来ないだらう位の元氣で勉強させたいと思ふのであります、ダカラ私は

子供が少し位成績のよろしい場合が御座います、餘りほめはいたしません、マゝ宜かつたが、アナタは自分がよく出来ると思ふと大變な間違、只外な人が餘りよく出来なかつた爲に、アナタが少しよかつた計りでありますぞ、まだ外によく出来る人は澤山あります、コレカラがほんとに勉強する時ですよ、之れからが大切ですよ、それに一つは先生なり、父さんなりのおかけですよ、自分をえらいなど、思つたら大間違、アナタが少しでも出来がよかつたといへば、先生や父様のお骨折です、之からもうよく仰を守て勉強なさい、私の兒に對するはめ言葉は此位な度で御座います。』

天竺牡丹の栽培法

千葉 晚香氏 談

近頃一般の家庭で、園藝植物を栽培することが流行となつた、中にもダリヤ、即ち天竺牡丹の栽培は極めて容易で單に植付けたいけでも相應に花が

見られるが尙ほ多少注意して栽培したならば、一層立派な花を見ることが出来る——、今其栽培法の概要を記して見やう

▲異り物の多い花 ダリヤは四月頃植付けると、五月下旬から十一月初旬まで絶えず開花して居る至極経済的な花である、而して其色彩と花形の變化に富んで居る事は、恐くこの草花の右に出づるものは無からう、約七八百以上の異り物があるといふ事である、私も是れまで五千株以上の實生を拵へたが、其中で際立つて色合の異つたものは、四五百種あつた、勿論新種の優等品は僅に十數種位しか出来なかつたが、今日流行して居るビオニイ咲なるものも、今尙ほ多少残つて居る、實生で優物を得ると云ふことは、却々難しい事である聞く所に據れば外國の園藝家は、此ダリヤ許りを、數十町歩乃至數百町歩の土地に栽培し、新種の作成に努めて居ると云ふ事であるが切て新種を拵へると云ふ段になると、前にも述べた如く勞力と費用とが多くかかるから、爰には先づ家庭の娛樂として、半坪位の地面又は鉢植として素人の手で出来る、極く簡易な栽培法と實生法の一端だけを述べ置く

る、極く簡易な栽培法と實生法の一端だけを述べ置く

▲植付の方法 地植で栽培する場合に四月から五月の間に、前年から貯へて置いた球根を、一旦地植として、而して十五日か二十日位経過した新芽が一寸か二寸五分位に伸びた所で、更に掘越して芽を幾つにも分離する、此場合に餘程注意しなければ肝腎の芽を缺くことがある、球根は傷けても害がないけれど、芽は特に大切にしなければならぬ、若し此際芽が二寸以上も伸びて居た場合には動もすると折れることがあるから、先づ其芽を一寸止り位に切斷して置いても差支がない、さうして之を植ゑるには深さ一尺二三寸乃至一尺七八寸位の穴を掘り、其下層に牛馬糞を、厚さ二三寸位土に混和して入れて置き、尙ほ其上へ二寸許も土を入れて植付けるのである、而して土は中高に盛上る位がよい、又一法は貯藏して置いた球根を溫室内で芽を吹かし、其芽を分離せしめて後前に述べたやうな方法で植付けるのである、鉢植と爲すには、別に難しい手数はいらぬ、土は普通の

る、極く簡易な栽培法と實生法の一端だけを述べ置く

のでよいが、然し出来る事なら牛馬糞の古くなつたものと、畑土と砂土とを等分に混和した培養土が出来ればお誂向である、尤も之が面倒なら畑土丈でも差支がない、而して鉢は成るべく大きい方が適當で徑七八寸以上一尺二寸止りで底の深いものが可い

▲摘芽の必要　ダリヤは徒らに丈高く伸び過ぎる傾きがあるから、鉢植に仕立てるには一尺位の所で二三度芽を摘む必要がある、さうすれば鉢相當の丈に仕立られ、盆栽としても随分美麗なものが出る、若し其手数を省いた場合には、無暗に伸び過ぎて、五六尺以上にもなり、體裁の悪い不恰好なものが出来上る、尤も芽を摘めば、幾分か花が遅くなるから其心算で少し早めに植込をして置かねばならぬ

▲害虫の驅除　植込んでから間もなく芽が萌出づる場合に、動もすると俗に夜盗蟲と云ふ恐い害虫が發生し新芽を容赦なく喰ひ荒すものであるから、其芽が出で七八寸位に育つた頃には、折々注意して根際之處を見て、この蟲を見付け次第に殺

さなければ不可ぬ、但しこの蟲の性質は、夜間葉の上に於て、柔かな新芽を喰ふのであるから、日没後一時間位経た頃燈火を點じて葉の表裏を能く注視すれば必ず發見することが出来る

▲肥料の供給　肥料分さへ絶やさなければ、花は絶えず咲いて美事である、初め芽が出てから七八寸の丈になつた所で、折々薄肥を與へるが可い、而して肥料は人糞でも、又油粕大豆の糞液等でも少し古く置いたものが良い初めから濃厚な肥料を施せば却て餘り強過ぎて宜しくない漸次濃くして與へる方針が良いのである

▲挿木繁殖も出来る　根分けの外に挿木繁殖も出来る、挿木法は普通の方法で可い、鋭利な刃物で俗に云ふ節の所、葉腋の下部から切つて挿すと速かにつく、而して季節に入梅後夏季の土用前が最も好時季で、成るべく早く着手する程、球根が大きく出来る、秋季にも挿木が出来る、けれど川腎の球が出来ないから、徒勞である、よし出来た所で役にたゝぬものであるから、其心算で挿木をしなければならぬ

▲**挿木中の管理** 挿木を行つた後は乾燥させぬ工夫をしなければならぬ地面へ挿木をした時は其挿木の上部を藁で薄く掩ひ、鉢又は箱やうのものに挿木をした場合には、隔日若くは三日目位に水を與へ而して過度に乾燥するのを防ぐ爲め成るべく日蔭に置くか、或は午前中は日が當り、午後は日蔭になる處に置いて、而して少し根が付き初めた頃に、日當りの可い處へ移し、水を絶えぬやうに爲なければならぬ、又挿木の用土は、砂土七分畑土三分位を混和したものゝ適當で

▲**實生法** 之れは三月中旬から四五月中に行ふのであるが、ダリヤの種子は牛蒡種のやうな色合で而して扁平な長いものである、種を播くには水拔のよい一定の土を擇み、種を蒔いてから一週間乃至十二三日間で發芽する、發芽當時は度々灌水して、本葉が少々出初めた所で移植する、尤も其移植土は云ふまでもなく肥沃なる土を擇み、二三寸乃至四五寸の間を隔て、一本宛植付ける植付け當時は頻繁に水と與ふれば成長を早め、而して以後一週間も経過すれば、メキ／＼と成長する、此時

は灌水する代りに、極く稀薄な水肥を一週一回位與へると、忽ち迅速に成長して株と株との間が、狭くなつた時には、又々移植していよいよ本植付に適當する迄の成育を遂げた上、一尺内外の間隔を付け植付をする、此場合に土中に穴を深く穿ち、其下へ牛馬糞を入れ、其上へ土を盛つて植付る尤も肥沃なる土地であれば、植付後に肥料を施しても差支ない

▲**秋季に刈取る方法** ダリヤは六七月頃盛んに開花して、一旦花は咲かぬやうになり、更に秋に入つて咲出す事がある、之れは養分の不足に據るのであるから、肥料さへ十分與へれば、花は不斷咲いて居て見事に觀賞することが出来る、而して前にも云つた通り、莖や幹が丈長く伸び花の付き方も少なくなることがあるから、之を矯正する爲め七月下旬から八月初旬に適宜に刈取り、十分施肥を施したならば新に出る芽に蕾を有ち續き開花するものである、斯くて霜の降る頃までは、飽かぬ眺めを増すのである

▲**切花としたら水揚げ** 實驗に依ればダリヤは前日

の夕方切つて切口を炭火で焼き、一夜の間水中に浸し置くか、左もなくば午前三時から四時の間に切り取り、水に浸けたものは、四五日乃至一週間位保つて居る、然し其他の時に切り取つたものは、忽ち凋落するのが普通である又切口を焼く代りに、之を切り取つた時直に其取口をアルコールに漸時浸せば能く水揚して日数を保つことが請合である

金魚の飼ひ方

都も鄙も艶陽の空長閑になり行き金魚の美しき姿を水に浮かせて家庭の目を娛ましむる季節も真近になりぬ金魚の中には一尾百圓、二百圓と云ふ高價のものあれど是等は姑く別とし縁日坏にて買ひ来る金魚の極手輕なる飼養法に就て農科大學委託試験場秋山吉五郎氏の談を掲ぐべし

▲器物 金魚は極弱いもの、様に思つてゐる人もありますけれど夫程弱いものではなく夫を殺すのは全く注意が足ないからで御座ります器物は桶でも

箱でも亦硝子の器でも瀬戸を引いた鹽でも構いませんが座敷に置くには硝子のツンドウが綺麗でもあり一番で御座ります。詰り器物は相當の場所さへあれば宜しいので其大さは一尺の硝子のツンドウには五匁位のもの（圓く肥えたもので頭より尾元まで一寸五分、總體で二寸五分より三寸位までなら五六尾、十匁位なら二尾と云ふ所で是より多くなる）と狭くなつて好くありません

▲食餌 餌を遣るのは午後より午前中が好いので最も好いのは氣分の最も好い十時頃で一回遣れば澤山で御座ります餌は子子、沙蠶、蚯蚓等一定しては居りません、詰り食ふ物なら何でも好いので駄でも結構です子子なら五匁位のものには一回に五匹位が適當で御座りまして十匁位のものなら八九匹と云ふ割合で御座りまして、餌を五分間位入れて置いて喰ふ氣が無ければ直ぐ揚げて了ひ其日一日は與へなくても差支はありませんので斯ういふ時は遣らない方は好いのです能く駄などを入れ放しにして水が白くなつて居る事がありますがアレは極好くないのです餌は喰ふても喰はないで

も五分間位より入れて置いては可いません金魚を一番殺すのは餌を遣り過すからで、夕方にでもなつて少し餌を遣り過さうものなら翌朝見ると皆残らず死んで了つて居ます、何でも八分位にして少なく遣つて置けば殺す氣遣は御座りません

▲水換へ 夫から水です水を取換へるのは餌を與へてから二時間乃至五時間位経つた時が宜しい餌を與へて直ぐ取換へるのは好くありません、取換へるのは毎日でも一日置き又二三日置きでも大した違ひはありませんが成る事なら毎日取換へた方が宜しう御座ります、入物の周圍に着いて居る蒼い水垢は成る丈け落さない様にして中に沈んで居る塵芥だけを掃除するが宜しい併し硝子のツンドウは周圍に水垢が着いて居つては見苦しいから周圍丈けを落して底だけを殘して置きます尤も無性の餌ひ方になると毎日餌も呉れなければ水も取換へないでも差支はなく十日も二十日も打捨つて置くと自然に蟲が生いて夫を喰つて活きて居ります

が夫では飼つて居る娛しみがありません、水の温度は池や大きな漆喰では八十度位までは差支あり

ませんけれど箱や硝子の入物では八十度になると直ぐ弱つて了ひます適度は先づ六十度位の所ですから此温度を見計つて水を取換へて遣らなければなりません

▲氣分 最も氣分の好い時は前にも申す通り九時から十時頃で其時には水中深く遊びで居り、氣分の好くない時は目を覺した明け方で口を半分出してバク／＼して居る時ですが水を取換へた時などに氣分が好いのです又夜になると眠て一定の所に静止し晝でも暗くすると眠つて居ます

▲種類 目下最も愛玩されて居るのは蘭鱗、琉錦、秋錦、和蘭獅子頭、目出錦、朱文錦、和錦、緋目高等では等の掛合には種々の者がありますがザツと其形と直段を申しますと

蘭鱗 頭に獅子頭があつて、胴の圓い背鰭のな
い尾の短いもので普通五錢より七十錢位
琉錦 頭の尖つた胴の圓い背鰭尾鰭の長い物で
五錢より六十錢位
秋錦 蘭鱗と和蘭獅子頭の懸合へ秋山氏の始
て作りたる物で蘭鱗の尾の長い物にて五錢より

一圓位まで
 蘭獅子頭 蘭鯉に背鰭のあるもので五錢より
 五十錢位
 出目錦 兩眼の飛び出した俗に支那金魚と云ふ
 物で一錢より十五錢位
 朱文金 普通の金魚と稱する物青、及其他種々
 の斑のあるもの三錢より十錢位
 和金 普通の金魚で一錢より二十錢位

御伽噺の研究

久保田米齋氏談

お伽噺や昔噺類の異本を研究するのは一面道樂
 なやうにも見えるが、其實少年文學研究上の一要
 素で、決して疎かにすべきでは無からうと思ふ。
 で、泰西諸國では、これが研究者も随分多くあつ
 て、其出版物も尠からぬことだが、吾邦では何故
 か少數の好事家が其異本の蒐集を企てゝゐるとい
 ふに過ぎず、文學的研究を試みた人は、寡聞なる

私の耳に二三人を記憶するのみだ。
 といつて、私自身が文學者の領分に立入り、卒先
 してこの研究を始めることでは無いが今度私の關
 係してゐる三越で兒童博覽會を催すのを幸ひ、其
 機會を利用して平生希望してゐたこの研究に着手
 するを得たので、狭い自分の研究を土臺として、
 少しばかり其ことを談して見たいと思ふ。
 今度私の研究したのは『桃太郎』で、お伽噺といつ
 ても随分數のあることであるが一度に彼
 も此もを研究することは到底不可能だ、そこで私
 は第一着手として『桃太郎』を撰むたので、さて研
 究して見ると甲から乙へと容易なことでは無い。
 元來『桃太郎』は延寶から天和の時代に作製された
 もので、今から二百五十年餘りも經つてゐる、そ
 して其物語本は二十種内外に及び且つ、中には題
 名ばかり解つてゐて、内容の不明なものもあると
 いふ始末、それを詮索するのだから一通りのも
 のではない。
 得るに随つて私の讀むものでは、桃太郎が桃の
 中から生れ出たといふのは新しい方で、最初はさ

うでない。乃ち媼が河から桃を拾つて来て、翁と二人でそれを喰べる、と、急に二人とも若がへつて幾許もなく一人の男の兒を儲ける、これが取りもなほさず桃太郎なので、それから鬼ヶ島征伐をするのは何も大同小異、只だ違ふのは桃太郎歸國して後に桃の流れ來たといふ河に入り、鯉と化して其河の主となる、そして時々其鯉を揮ふので世に地震が起り、地震の際に雉子や犬の鳴くのは昔主従の關係があつたからだといふのだ、考へて見ると捏造も甚だしいが桃を喰べて若がへつたといふ筋のは如何にも面白い。

それから此等の本の繪であるが、それは大體その當時の服裝に準じたもので、多くは桃太郎に廣袖が着せてある、そして本文よりも繪が主で、物語はいづれも龍頭に書いてあるのだ。

今度三越で此等の異本を借用したのは安田家だの林若吉氏だの、其二三の珍本藏書家からで堀野文祿氏もこれを蒐集してゐるさうだから交渉する筈だがまだ他にも同好の士があらうと、思ふ、併し今回の間にはあふまいから、尙ほ引續き其研究に

従事して、いづれ詳細なるものを發表する覺悟だ。實際此種の研究は、單に好事といふことに止めず進むで系統的にこれを行ふに於ては、傳説や比較神話の研究に到達するもので、敢へて等閑にすべきではない。一例をあげて云へば『文福茶釜』の話なども、『東山化狐』といふのがその原話で、それが段々關東に持來たされ、遂に狐が狸に迄化けかへつたので、此間にも一種の傳說的徑路が存在するのである。





お伽訓話

三つの難問

硯山人

むかし／＼或る所に一人の王様がゐらつしやいました。たくさんしんかの臣下のうち一人太助と云ふ大層正直な下僕しもべがをりました。この王様は太助が一番に御好きで毎日王様の食事の事から何から何にいたるまで皆太助が致してをりました。ところが王様の食事を召し上つたのち何やら御一人できつとまためし上ります。それは太助にも何を上るか御教へにならずきつと食事後に一人でめし上つてをります。

或る夏の日の事で御座りました太助がふと王様の御部屋に参りますと王様は今丁度御飯をめし上つた所でして何か一人でしきりと召し上つてをりました。太

助は之は悪いところにはいつてきたとは思ひましたが又いつも王様が食後きつ

と一人でめし上る物は何かしらと急に知りたくなりましたのですから

「王様の召上つてゐらつしやる物は一體何で御座いますか」

と丁寧に御尋ね致しました。王様はニツコと御笑になりました

「之かこれは白い蛇の尾だ」

とおつしやいまして皿から一片をとり出し

「太助。御前も長々奉公してよく忠義をつくしてくれたから今日は

褒美に之を一片上げやう」

とおつしやりながら太助に下さいました。太助は大層喜びまして早速一片頂戴

致し王様の召し上る物ですから定めし美味なものでせうと思ひながら食べて見

ますると味も何もありませんでした。けれども王様はニコ／＼笑らいながら

「太助。御前がそれをたべると今にびつくりする事が出来るぞ

と申されました。その日の夕方太助は一人で御殿の庭に出てあちこちと散歩を

致してをりましたところ不思議や急に鳥の御話やら虫の御話をしてゐるのが皆わかるやうになりました。之れは面白いと思ひあちこちとなほ散歩致しとうとう大きな御池のそばに参りました。ふとむかうの方を見ますと澤山な鶯鳥がガア／＼ガア／＼と大騒ぎを致してをります。太助は何事が起りましたのかとそばへ行つて見まると

鶯鳥の甲「ア、苦しいア、苦しいまるで御腹が裂けて仕舞そうだ」

鶯鳥の乙「マア、一體どうなさつたのです、どうしてそんなに御苦しい

のです」

鶯鳥の甲「イエ先程御庭の隅みで金の指環が落ちてをりましたのをつい

呑込んで仕舞つたのです」

鶯鳥の乙「それは大變な事をなされましたねどう致したものでせうか」

と云ひながらガア／＼と大騒ぎを致してをります。太助は之を見ますと早速飛んでいつてその指環を呑みこんだと言ふ鶯鳥をつかまへました。そして御城に

歸つてきて見ますと御城では大騒ぎです。皇后様の大切な指環がなくなつたと云ふ事で皆んなで方々を探してをりましたところ御座いました。そこで太助は

「その指環なら此の鷺鳥が呑みこんだのです」

と申しましたが誰れもほんとうにするものがありません

「そんな筈はない。鷺鳥のお腹の中の物がどうして分るものです

か」

とてんでとり合ひません。太助はそこで鷺鳥を殺して見ますと果してその御腹から金の指環が出て参りました。皆んなは大變にびっくり致しました。太助は澤山の御褒美を頂きました。或る日太助は王様の前へ参りまして

「さて。ながらく御厄介になりましたが私も少々世界中を廻つて歩

きたいと思ひますからどうか御暇を下さいませ」

と申しました。王様は

「それは誠によい思ひつきだ。それでは早速之から出發したらば

よからう」

とて又澤山の御金やらいろいろの立派なものを給はりました。太助は

「私は別に何にも入りませんからどうか一匹のよい馬を下さいま

せ」

とて一匹の大層よい馬と少し許りのお金とを頂いて此の御城をあとにして、ト
ウトウと出發致しました。

やがて大分参りますと一つの大きな河のそばに参りました。太助は此の邊で一
休み致しませうと思ひまして河の岸へ腰を下しました。すると足元で誰やら呼
ぶものがあります。はてなと思ひまして下を見ますと小さな御さかなが

「モシ」。どうか御願ひですから私をこゝから出して下さいま

せ」

と申してなります。よく見ますと藻の間にかままれてその小さな御魚は大層

困つてゐる所でした。太助は親切な人ですから

「ヤレく可愛想に定めし困つた事であらう今私が藻をとつて

上げますよ」

と云ひながら藻をどけて小さなおさかなを逃してやりました。小さなおさかなは喜んで鰭を振りながら

「どうもどうも難有う御座りました。きつと御禮は致します」

と云つたかと思ひましたら水底深く沈んで行つて仕舞ました。太助はまたドンくと参りますとむかうの方で赤い蟻がたくさん集まつて何やら騒いでをります何を云つてゐるのかと思ひ傍へ参り聞いて見ますと

蟻の甲「モシく又人間がやつてきましたよ折角私たちが巢をこし

らへるとは人がきて蹈付けてゆくから困つて仕舞ます」

蟻の乙「ほんとにそうです、どうかこんどきた人は私たちの巢をよけて

歩いて行つてくれるとよいのですが

など、申してをります。そこで太助は蟻の巢をよけてぐるりと廻つてゆきました。すると蟻共は大層喜びまして

「どうも、難有う御座います きつと御恩返しは致します」と叫びました。

やがて日の暮れがたに太助は大きな林をとうつてゆきました。そうしまするとしきりとピヨ／＼する聲がきこえます。だん／＼その聲の方へ行つて見ますると一羽の雛鳥が地面におちて困つてをる所でした。太助はすぐひろい上げて「お、可愛想に。然し私が見付けてからは大事にして上げるからも

う心配する事はない」

と親切にいたはつてやりました。そして翌日になりその小鳥を逃してやりまると小鳥は喜び勇んでパ／＼と羽ばたきをしながら

「御蔭様で助かりました。又その中御目にかゝる折もきつとありませう」

と云ひながら飛んでいつて仕舞ました。

やがて太助は或る立派な町へ参りました。その町の入口に大きな立札が立つてをります。

「三つの難問をとき得ると思ふ者は來れ」とたゞ書いてあります

三つの難問とは何でせうと太助は考へました然し兎に角御城に行つて見ませうと思ひまして御城をさして参りました。やがてその町の王様に御目にかゝると「こゝから十里東の方へゆくと河があるそこに金の指環が沈んで

あるから持つてこい

との事でした。太助は云はれました通り東の方へ十里行つて見ますとそれはそれは大きな河がありました水はドン／＼と流れてゐてどこに指環が沈んでゐるかとても分りません全くとほうにくれてぼんやり立つてゐますと

「モシ／＼ 指環は茲にありますよ」

と云ふ聲がします驚いて見ますと先日のおさかなが口に指環をくわへて來まし

た。太助は大層喜び厚く御禮を云つてその指環を持つて王様の所に参りました。王様は大層御ほめになりました

「それでは此の御米を一粒づゝひろつて笹の中に一時間の中に皆いれなくてはいけない」

と申されました。見ますると澤山な御米が山のやうに積んであります太助は一粒づゝとつては笹の中に入れましたが一粒づゝでは中々にはかがゆきませんと一時間はおろか一日かゝりまして一粒づゝでははこびきりそうもありませんでしたところがどこから來たともなしに澤山な赤蟻が出てきました

「サア／＼皆なて手傳いませう」

と申しながらまたゝく間にその澤山な御米を皆笹の中に入れて仕舞ましたところへ王様が出て御いになつて

「これはゑらいそれでは第三の難問を出そう それはこの世界の果てに大きな林檎の木があるその實を一つ持つてきてほしい」

と云ふ事でした。これには太助もほと／＼困つて仕舞ました。どうして海や山を越へて世界の果まで行かれやうかとボンヤリ空をながめてをりますと忽ち一羽の鳥が嘴に一つの林檎を喰へて舞下つてきました。そして

鳥 先日は御蔭様で命びろいを致しました今日は其の御禮の印しに世界の果ての林檎の實を一つ採つて参りました」

と云つて太助にその林檎の實を渡しました。太助は大層喜んで王様のところへ此の實を持つて参りますと王様は又大層御喜びになりました

「御前はほんとにゑらひ人だ 今日から御前を此の國の王様にして上げる」

とて太助を王様にして下さいました。太助は立派な國の王様になりました安樂に此の世を送りました

めでたし／＼／＼

フレーベル會規則

- 第一條 本會ハ幼兒保育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ハフレーベル會ト稱シ東京ニ置ク
- 第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒保育ニ篤志ナルモノニシテ會員ノ紹介ヲ經ベシ
- 第四條 會員ハ本會ノ經費トシテ一ヶ月金拾錢ヲ贈出スベシ
- 第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルモノハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルベシ
- 第六條 本會ノ目的ヲ達センガ爲ニ左ノ事業ヲ行フ
- 一 總會 毎年四月廿一日之ヲ開キ保育ニ關スル演說、談話、保育參考品幼兒成績物展覽 會務ノ報告 幹事ノ選舉等ヲナス但シ會日ハ會長ノ意見ニヨリ之ヲ變更スルコトアルベシ
- 一 常會 毎年二月、六月、十月、十二月ノ第一土曜日之ヲ開キ保育ニ關スル演說、談話、協議、實驗等ヲナス
- 一 組合會 會員中特ニ或ル事項ヲ研究セントスルモノヲ以テ組織ス
- 但シ別ニ組合會規約ヲ定メテ會長ノ承認ヲ經ルモノトス
- 一 雜誌發行 毎月一回雜誌ヲ刊行シテ之ヲ會員ニ配布ス
- 一 前項ノ外本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件
- 第七條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
- 會長 一人 會務ヲ總理ス
- 主幹 一人 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス
- 幹事 若干人 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
- 評議員 若干人 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ズ
- 第八條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス
- 第九條 主幹、幹事、評議員ハ會長ノ特選トス
- 第十條 本會ハ必要ニ應ジ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ルルコトアルベシ
- 第十一條 此規則ハ會員三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

幼兒談話材料

定價 金四拾錢
郵税 金四錢

坊間のお伽話は多くは小學校時代の子供には適しても幼兒には適さぬものです。是は本會に於て特に幼兒の爲めに編纂しましたのでおばさんやお母さんが幼兒のお伽には必要のものです。本書にない話は本書を標準として作話なさることが出来ませう。

手工圖形

定價 金五拾錢
郵税 金四錢

是は幼稚園恩物の使用法を圖示したもので幼兒をして造らしむ可きものと保姆の造りて與ふ可きものとを併せて載せてあります。

幼稚園遊戲

定價 金四拾錢
郵税 金四錢

幼稚園に於ける共同遊戲を説明したものです。小學校の初年級や家庭に於ても頗る有用だらうと存じます。

本會員の方にて右二書同時に御注文の方には合計代金郵税共金壹圓に大割引可致候

廣告

來ル十一日（土曜）午後一時卅分より東京女子高等師範學校附屬幼稚園に於て本會常會相開き左記講演有之候に付御繰合せ御出席願上候

●演題未定

文學士 倉橋惣造氏

●幼兒の齒に就いて

未定

六月五日

フレールベル會

幼稚園事業に **滿腔の興味** を持

てる商店ありや

幼稚園の恩物材料を **眞に研究**

せる商店ありや

幼稚園の教材をフレールベル氏撰定の

もの以外に **見出さんと焦慮**

せる商店ありや

幼稚園の恩物材料を **家庭に用**

ゐしめんと勤 めつゝある商

店ありや

恩物材料は高價いものてふ **格言**

な破らんと努力せる商店ありや

曰く、九段中坂上に

フレールベル館あり

振替口座一九六四〇

明治四十三年六月一日印刷
明治四十三年六月五日發行

編輯兼東京市小石川區竹早町七二
發行者 和田直持

印刷所

東京市本所區番場町四番地
守 功

發行所 フレールベル會

夏期講習會題録

来る八月一日より十日間本會に於て夏期講習會を開設す幼児教育に熱心なる母姉保姆諸君の御入會を希望す

幼児教育の理論及實際

一學科

音 樂
手 工

東京女子高等
師範學校助教授

和田 實

東京女子高等
師範學校教職

林 蝶

東京女子高等
師範學校訓導

藤 五代 策

講習要目は次頁にあり御覽を乞ふ

一時日

八月一日より同十日迄毎日午前八時より午后三時迄各科二時間ヅ、

一聽講料

金貳圓 但し本會々員は貳割引

一課外講演

前記學科外に時々大家を聘して有益なる課外講演を行ふ

一宿舎

御希望に因り適當なる宿舎を紹介す既に御申込の方は東京女子高等師範學校寄宿分舎に御入れ申様取計ひ候尤もまだ多少餘裕有之候

一申込

郵便にて本會へ直接申込まる可し

明治四十三年七月

フ レ ー ベ ル 會

フレーベル會規則

- 第一條 本會ハ幼兒保育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ハフレーベル會ト稱シ東京ニ置ク
- 第三條 會員ヲラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒保育ニ篤志ナルモノニシテ會員ノ紹介ヲ經ベシ
- 第四條 會員ハ本會ノ經費トシテ一月金拾錢ヲ贈出スベシ
- 第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルモノハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルベシ
- 第六條 本會ノ目的ヲ達センガ爲ニ左ノ事業ヲ行フ
 - 一 總會 毎年四月廿一日之ヲ開キ保育ニ關スル演說、談話、保育者品物展覧會ヲ報告、幹事ノ選舉等ヲナス
 - 二 但シ會日ハ會長ノ意見ニヨリ之ヲ變更スルコトアルベシ
 - 三 常會 毎年二月、六月、十月、十二月ノ第一土曜日之ヲ開キ保育ニ關スル演說、談話、協議、實驗等ヲナス
 - 四 組合會 會員中特ニ或ル事項ヲ研究セントスルモノヲ以テ組織ス
 - 五 但シ別ニ組合會規約ヲ定メテ會長ノ承認ヲ經ルモノトス
- 第七條 雜誌發行 毎月一回雜誌ヲ刊行シテ之ヲ會員ニ配布ス前項ノ外本會ノ目的ニ裨益フリト認メタル事件
- 第八條 會長ニ左ノ役員ヲ置ク
 - 一 會長 會務ヲ總理ス
 - 二 主幹 一人 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス
 - 三 幹事 若干人 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
 - 四 評議員 若干人 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ズ
- 第九條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス
- 第十條 主幹、幹事、評議員ハ會長ノ特選トス
- 第十一條 本會ハ必要ニ應ジ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ルルコトアルベシ
- 第十二條 此規則ハ會員三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

幼兒教育談話材料

定價 金四拾錢
郵稅 金四錢

坊間のお伽話は多くは小學校時代の子供には適して、幼兒には不適きぬものです。是は本會に於て特に幼兒の爲めに編纂しましたので、おばさんやお母さんが幼兒のお伽には必要のものです。本書には本會の標準として作話なさることが出来ませう。

幼稚園手工圖形

定價 金五拾錢
郵稅 金四錢

是は幼稚園恩物の使用法を圖示したもので幼兒をして造らしむ可きものと保姆の造りて與ふ可きものとを併せて載せてあります。

幼稚園遊戯

定價 金四拾錢
郵稅 金四錢

幼稚園に於ける共同遊戯を説明したものです。小學校の初年級や家庭に於ても頗る有用だらうと存じます。

本會員の方にて右三書同時に御注文の方には合計代金郵稅共金壹圓に割引可致候